

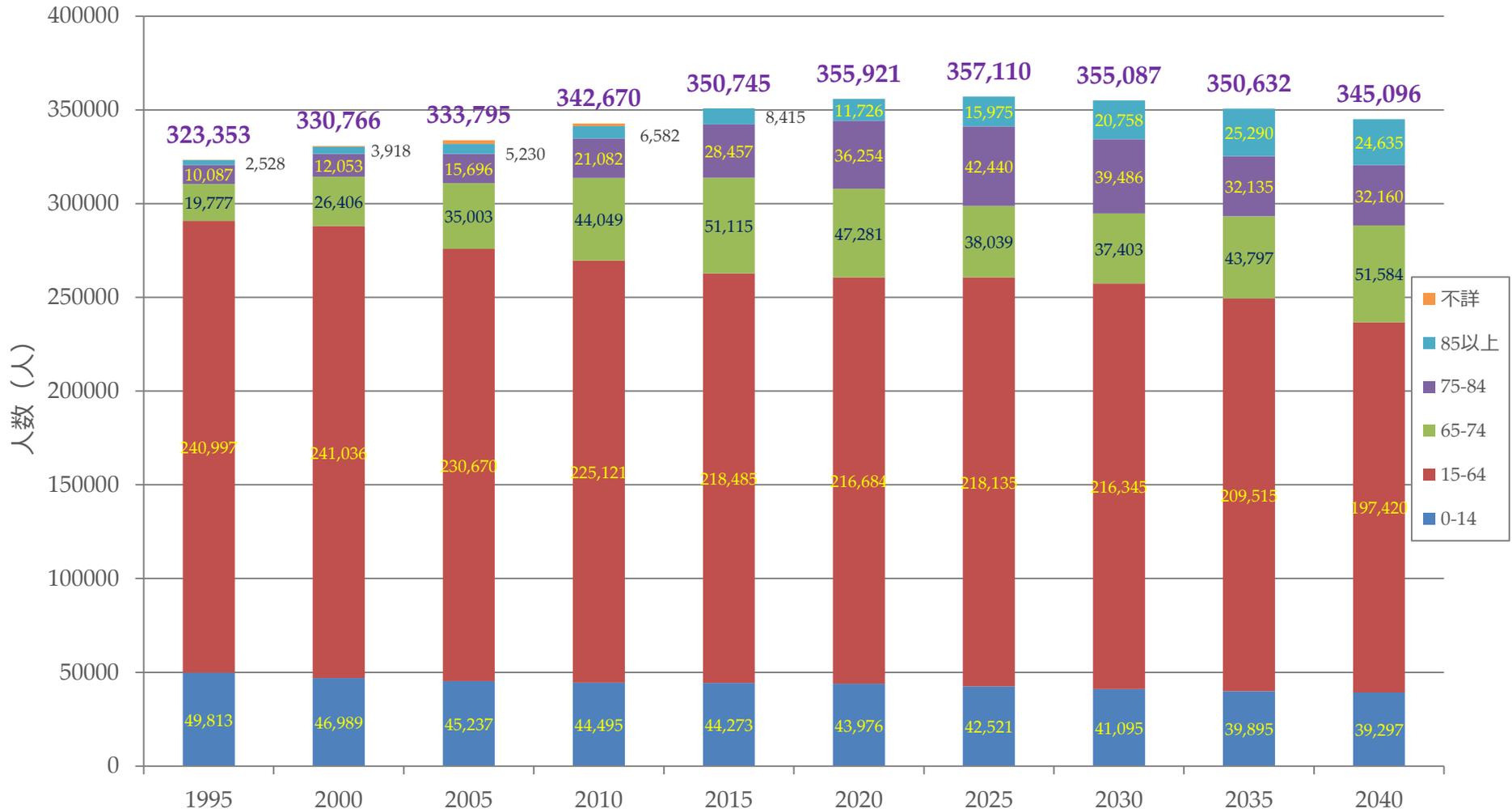
川越委員 提出資料

1. 人口の動向

人口の推移及び将来推計（1995～2040年間）

- 総人口は2025年をピークに、15～64歳人口は2000年以降、年々減少している。
- 85歳以上人口は、1995年の2,528人が年々増加し、2040年に24,635人まで増加していく。

図表1-1. 人口の推移及び将来推計



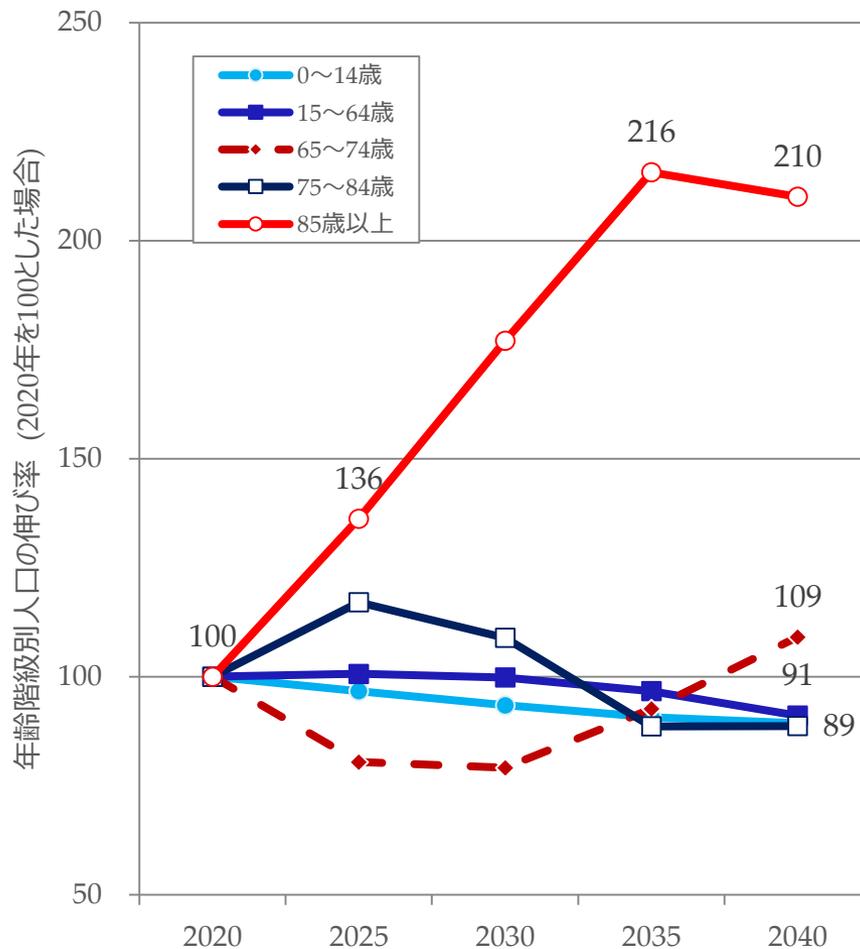
人口構造の変化（川越市）

- 2020→2040年間で、総人口は10,825人(3.0%)、15-64歳人口は19,264人(8.9%)減少していく。
- 一方、85歳以上は11,726→24,635人(2.1倍)に増加。2040年には総人口の7.1%を占める状況となる。

図表1-2. 2020→2040年の年齢階級別人口の変化

	2020		2040		変化量
	(人)	(%)	(人)	(%)	
総数	355,921	100.0	345,096	100.0	-10,825 (-3.0%)
0-14歳	43,976	12.4	39,297	11.4	-4,679 (-10.6%)
15-64歳	216,684	60.9	197,420	57.2	-19,264 (-8.9%)
65-74歳	47,281	13.3	51,584	14.9	4,303 (9.1%)
75-84歳	36,254	10.2	32,160	9.3	-4,094 (-11.3%)
85歳以上	11,726	3.3	24,635	7.1	12,909 (+110.1%)
再掲) 65歳以上	95,261	26.8	108,379	31.4	13,118 (+13.8%)
再掲) 75歳以上	47,980	13.5	56,795	16.5	8,815 (+18.4%)

図表1-3. 年齢階級別人口の伸び率

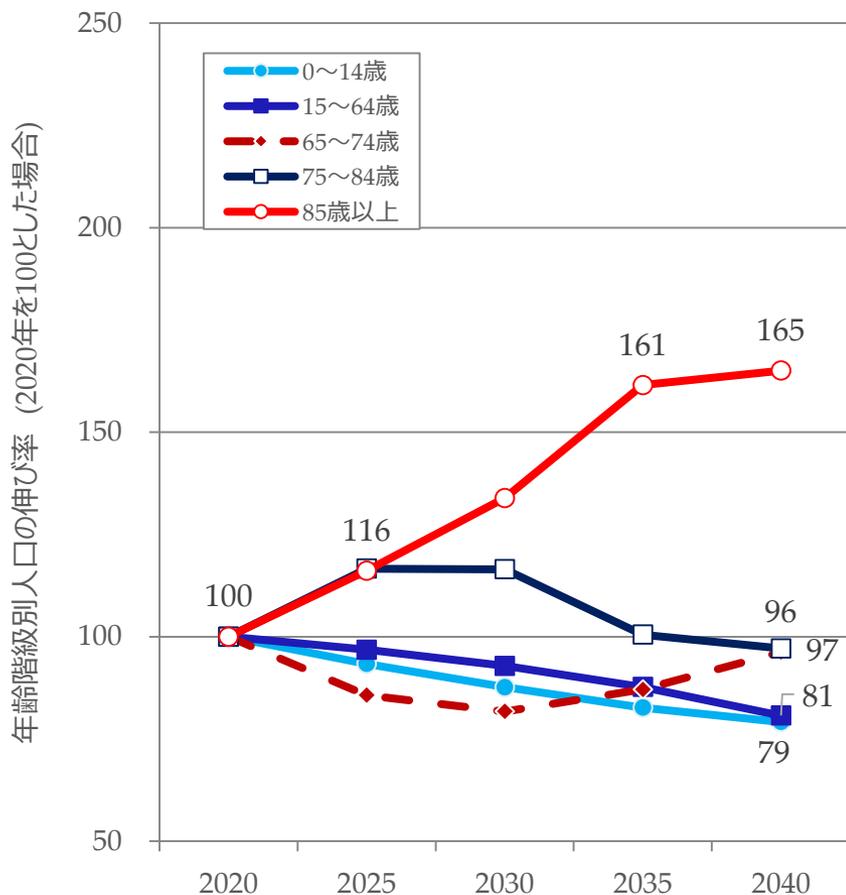


人口構造の変化（全国との比較）

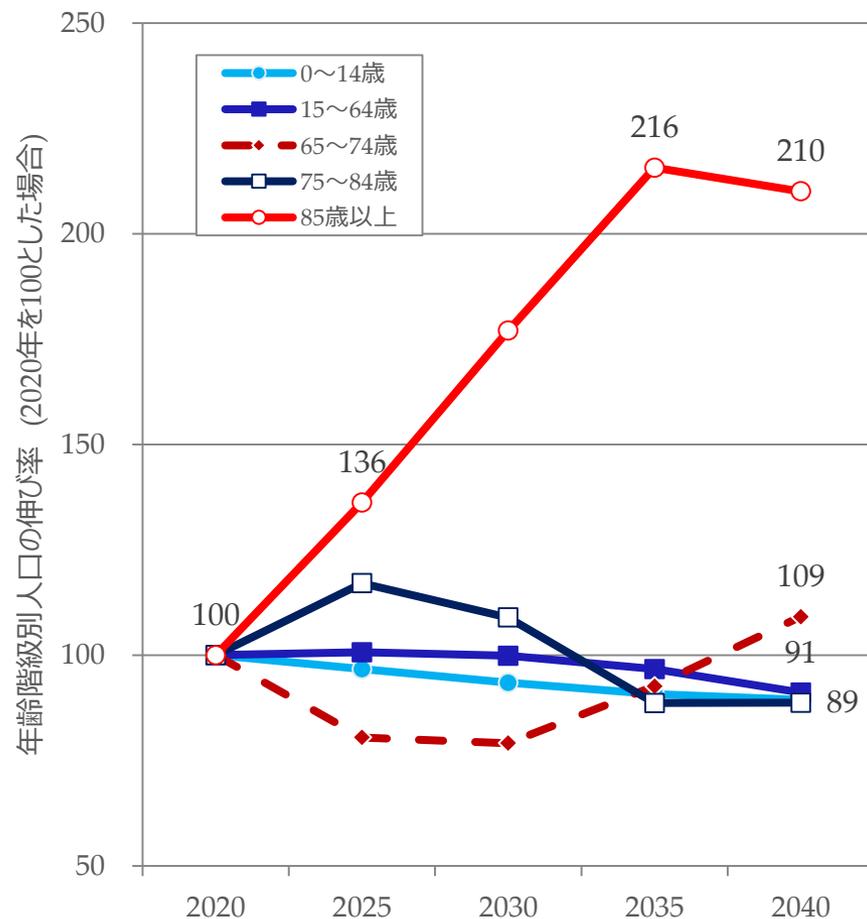
- 2020→2040年間の15～64歳人口の減少率は、「全国」19%に対して「川越市」9%、85歳以上の増加率は、「全国」65%に対し「川越市」110%と、川越市は全国に比べて、生産年齢人口の減少率は低く、85歳以上人口の増加率は高い状況であった。

図表1-4. 年齢階級別人口の伸び率の全国との比較

a) 全国



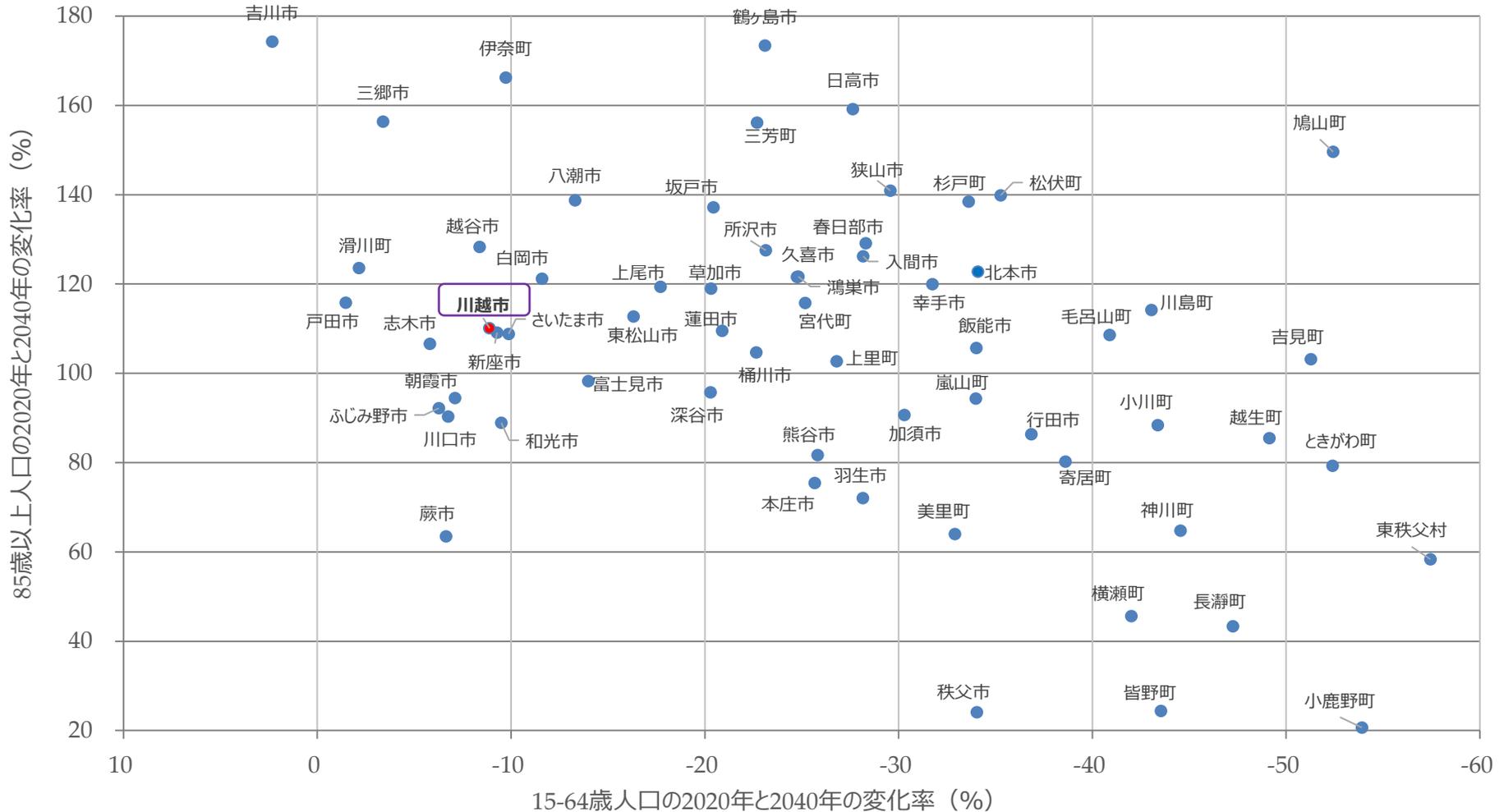
b) 川越市



15-64歳／85歳以上人口の変化の市町村比較（2020年と2040年の変化）

- 15-64歳人口の減少率は、「東秩父村」が57.5%減と最も高く、川越市は8.9%減で高い方から53番目であった。
- 85歳以上人口の増加率は、「吉川市」が174.3%と最も高く、川越市は110.1%で高い方から29番目であった。

図表1-5. 2020→2040年間の15-64歳人口と85歳以上人口の変化の市町村比較

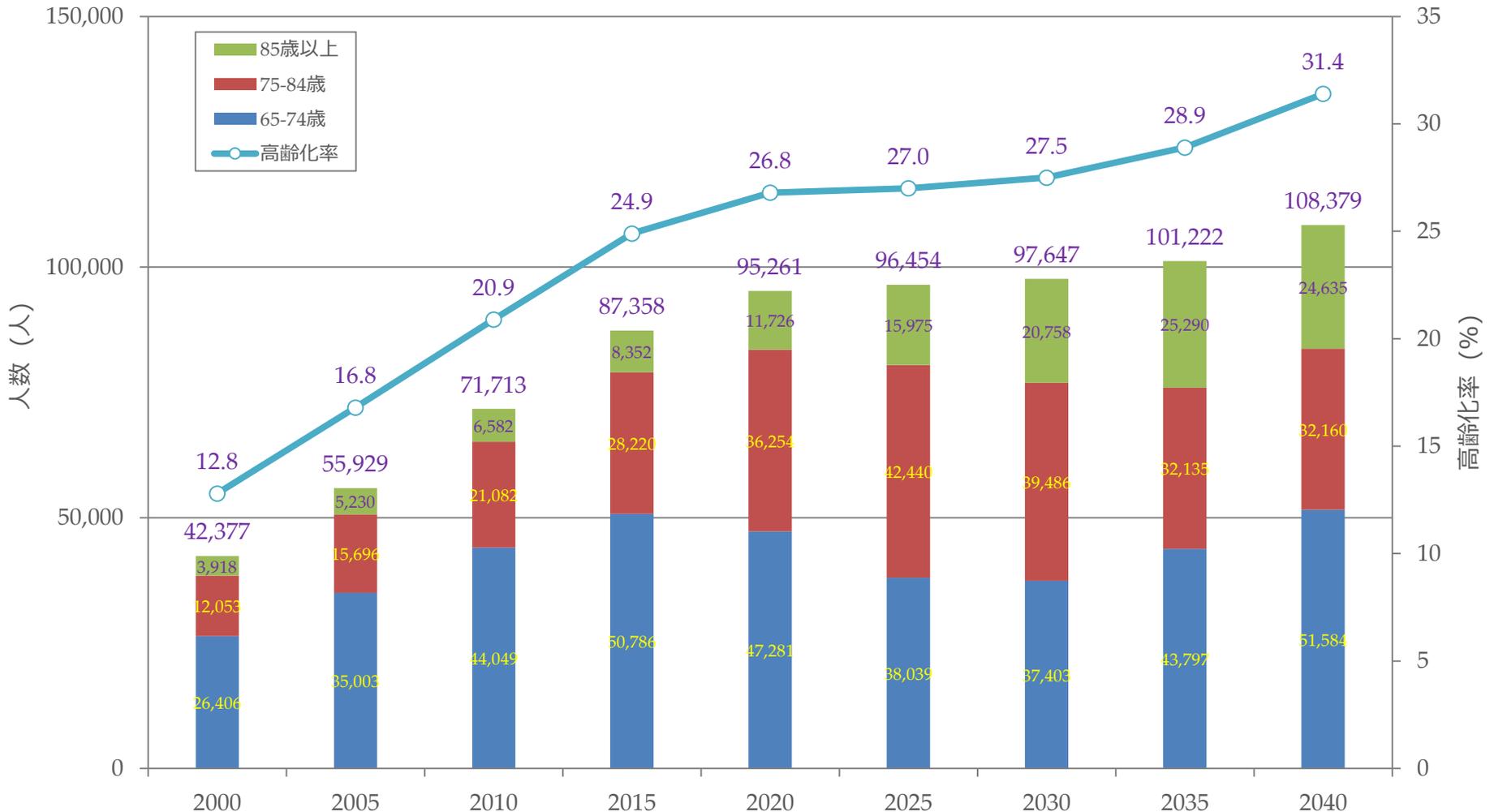


2. 高齢者の状況

年齢階級別に見た高齢者数及び高齢化率の推移

- 65歳以上の高齢者数は、2000→2020年間で急増した後、伸びは緩やかとなっている。
- 総人口は2025年をピークに減少する一方で、高齢者数は増加するため、高齢化率は上昇し、2000年の12.8%が2040年には31.4%となる。

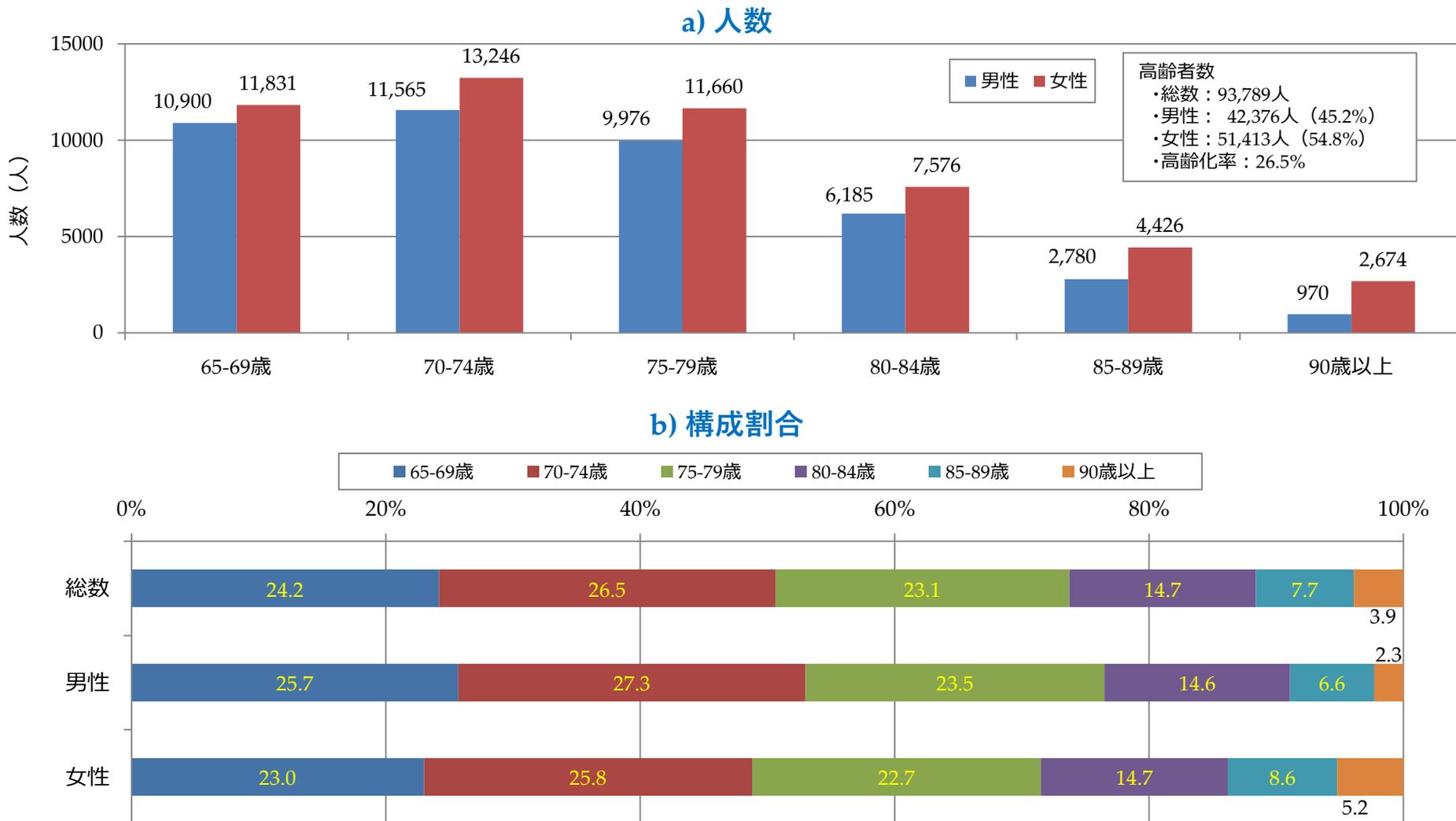
図表2-1. 高齢者数及び高齢化率の推移



性別年齢階級別にみた高齢者数の分布状況（2019.9時点）

- 2019年9月末時点の高齢者は93,789人で、うち女性は54.8%であった。
- 高齢者のうち、85歳以上が占める割合は、「男性」8.9%、「女性」13.8%であった。

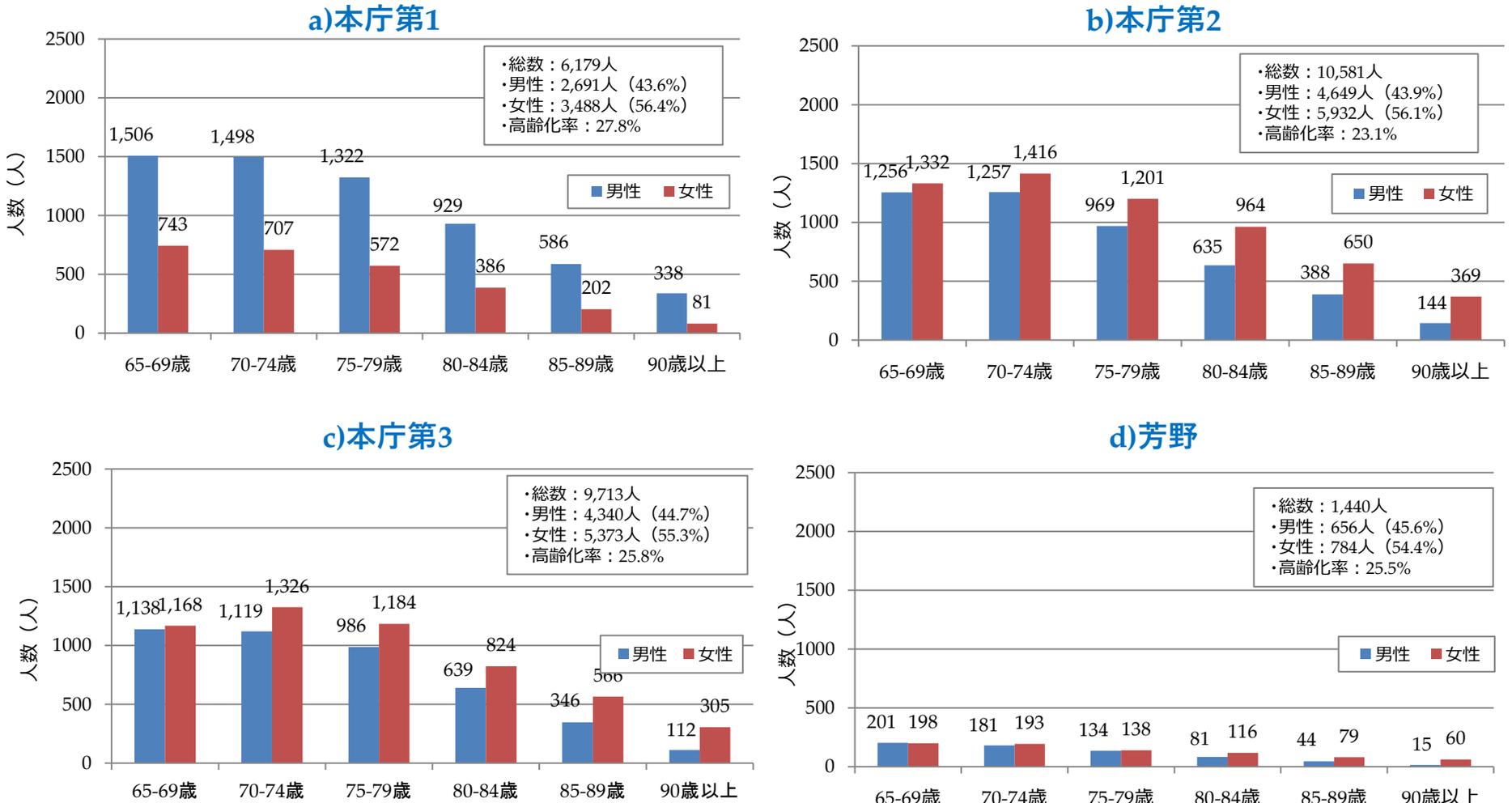
図表2-2. 性別年齢階級別にみた高齢者数



圏域別にみた高齢者数（2019.9時点）

- 2019年9月末時点の高齢者93,789人を圏域別にみると、「高階」が14,425人(15.4%)と最も多く、次いで「本庁第2」10,581人(11.3%)、「本庁第3」9,713人(10.4%)の順であった。

図表2-3. 日常生活圏域別にみた高齢者数

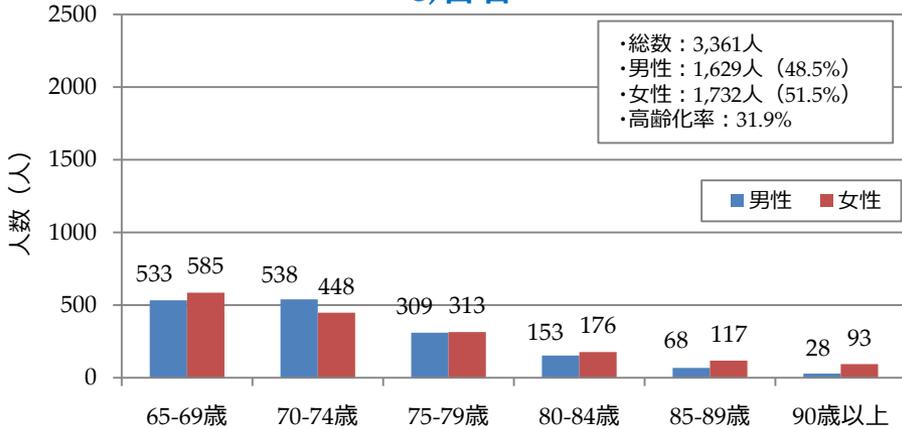


圏域別にみた高齢者数（2019.9時点）

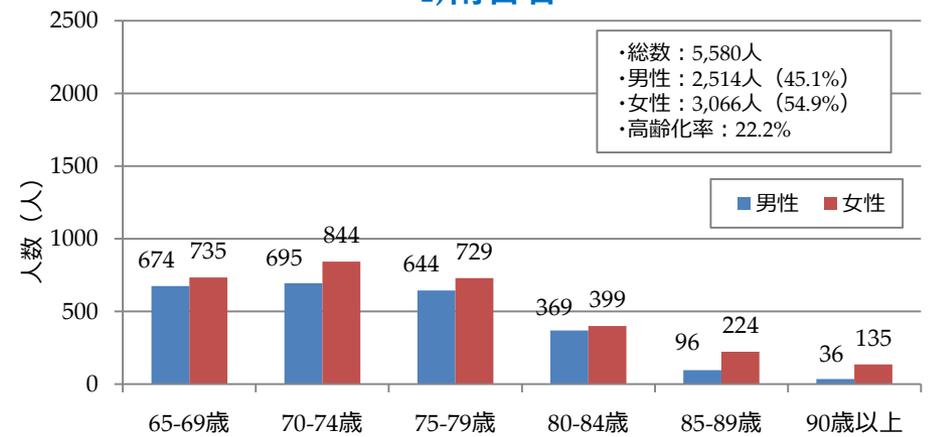
- 2019年9月末時点の高齢者93,789人を圏域別にみると、「高階」が14,425人(15.4%)と最も多く、次いで「本庁第2」10,581人(11.3%)、「本庁第3」9,713人(10.4%)の順であった。

図表2-3. 日常生活圏域別にみた高齢者数

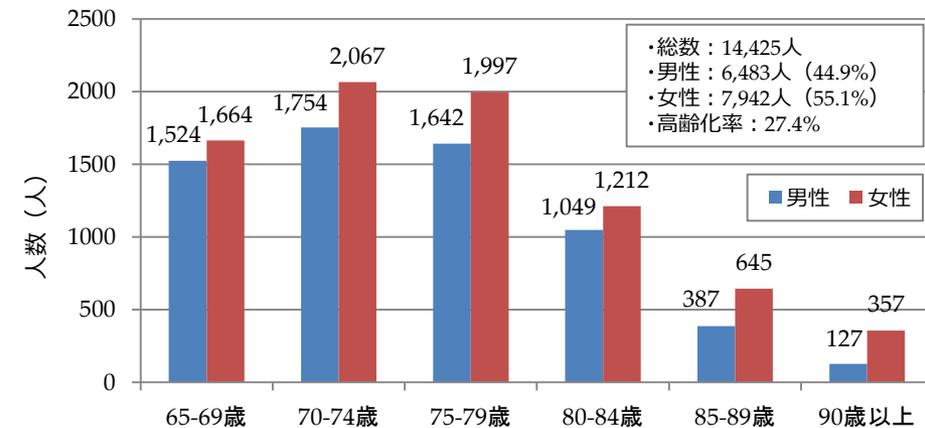
e)古谷



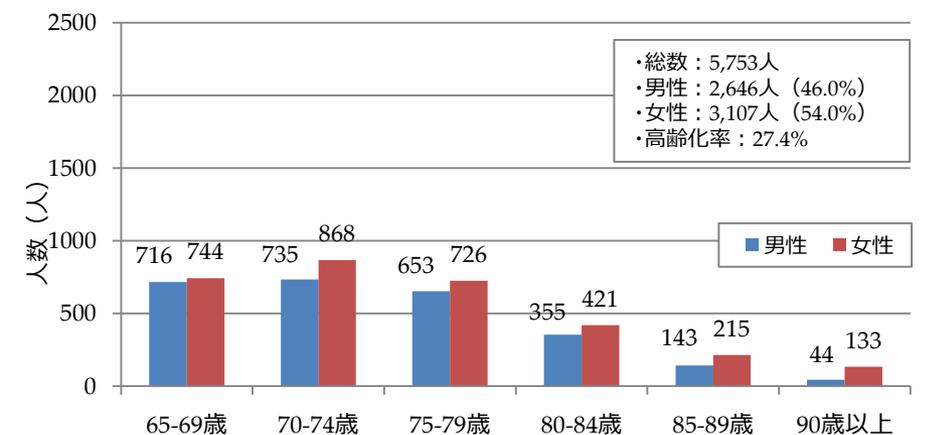
f)南古谷



g)高階



h)福原

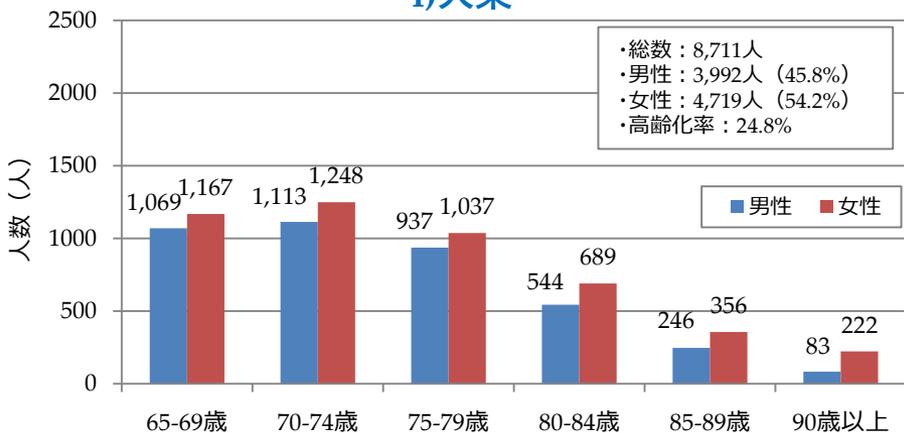


圏域別にみた高齢者数（2019.9時点）

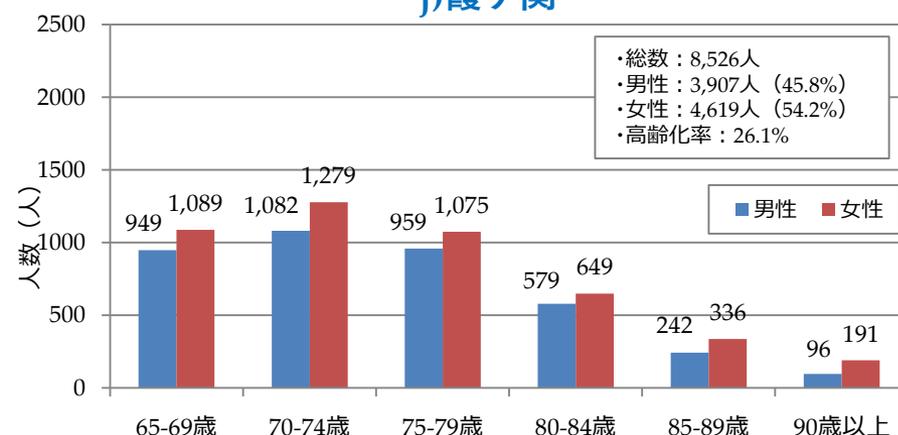
- 2019年9月末時点の高齢者93,789人を圏域別にみると、「高階」が14,425人(15.4%)と最も多く、次いで「本庁第2」10,581人(11.3%)、「本庁第3」9,713人(10.4%)の順であった。

図表2-3. 日常生活圏域別にみた高齢者数

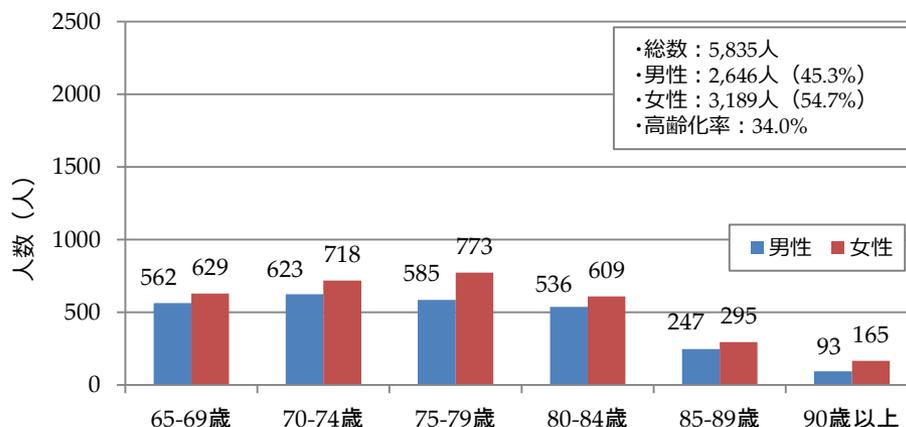
i) 大東



j) 霞ヶ関



k) 霞ヶ関北

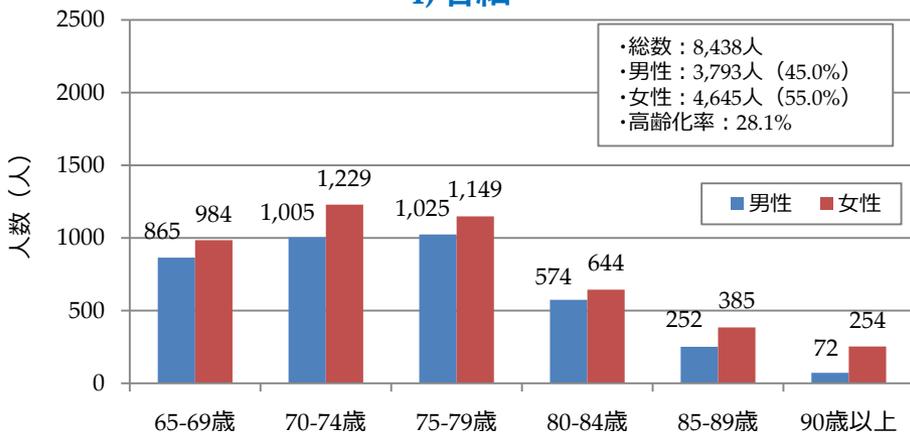


圏域別にみた高齢者数（2019.9時点）

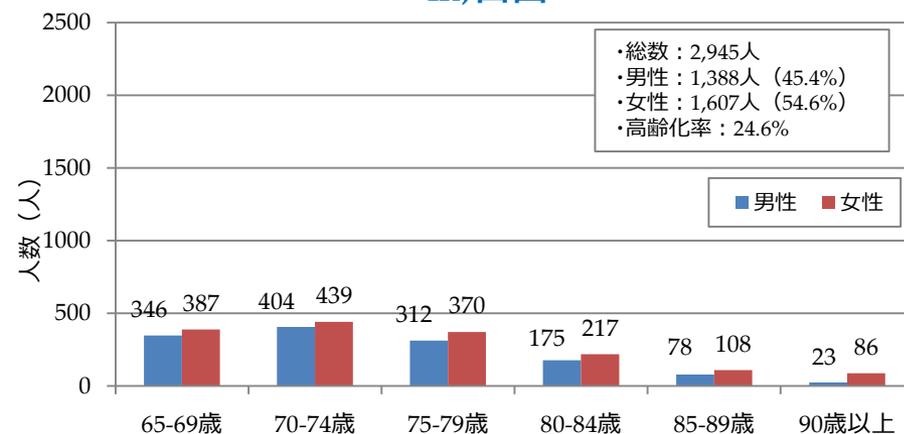
- 2019年9月末時点の高齢者93,789人を圏域別にみると、「高階」が14,425人(15.4%)と最も多く、次いで「本庁第2」10,581人(11.3%)、「本庁第3」9,713人(10.4%)の順であった。

図表2-3. 日常生活圏域別にみた高齢者数

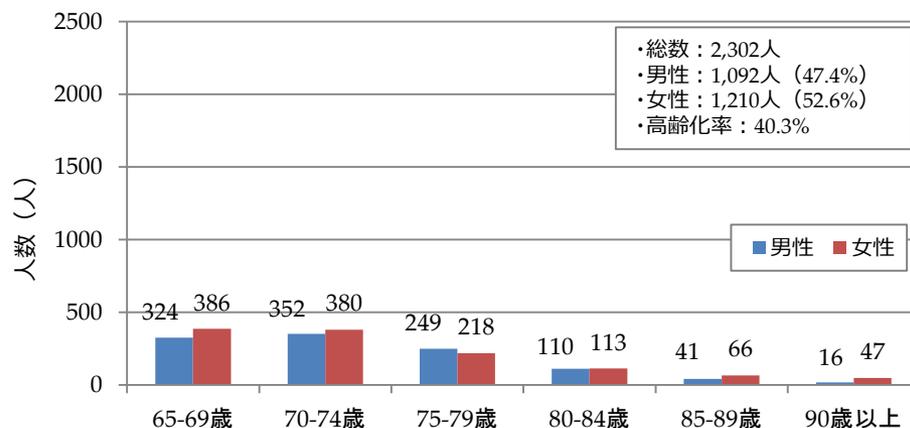
i) 名細



m) 山田



n) 川鶴



3. 高齢者世帯の状況

高齢者世帯の状況

図表3-1. 高齢者世帯の変化（2000年と2015年の比較）

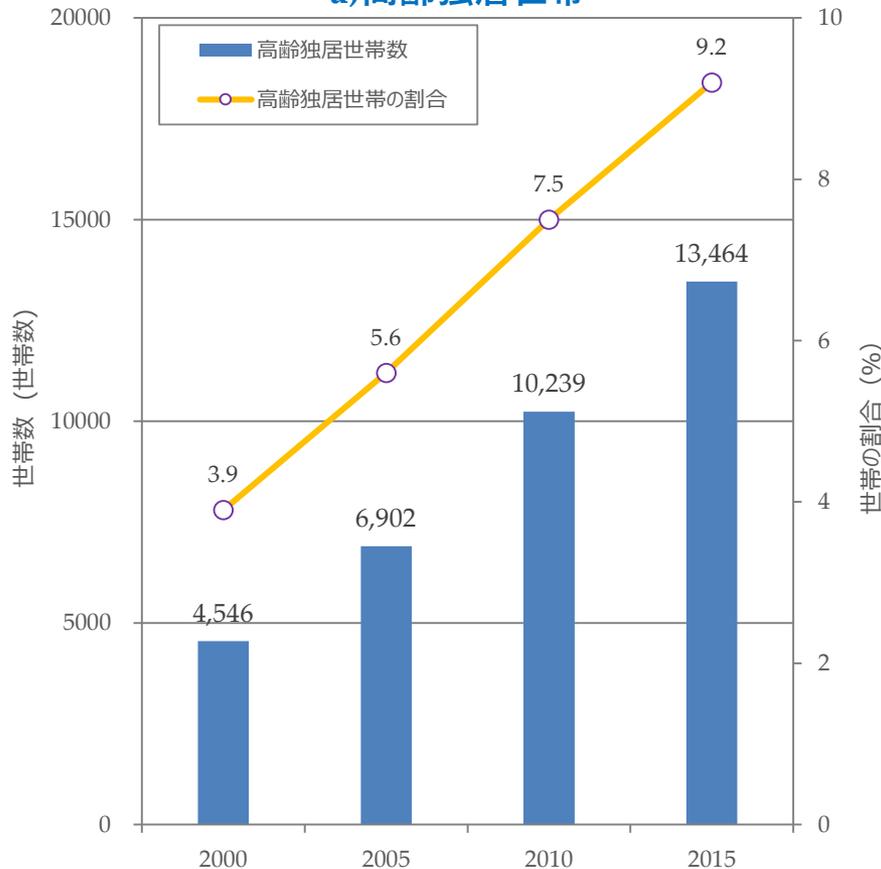
	2000年	2015年	増加量 (倍)
一般世帯数 (世帯)	117,582世帯	145,563世帯	1.24倍
高齢者を含む世帯数 及び一般世帯に占める割合	29,513世帯 (25.1%)	57,001世帯 (39.2%)	1.93倍
独居高齢者世帯数 及び一般世帯に占める割合	4,546世帯 (3.9%)	13,464世帯 (9.2%)	2.96倍
高齢夫婦世帯数 及び一般世帯に占める割合	4,994世帯 (4.2%)	15,106世帯 (10.4%)	3.02倍

高齢独居世帯・高齢夫婦世帯数及び割合の推移

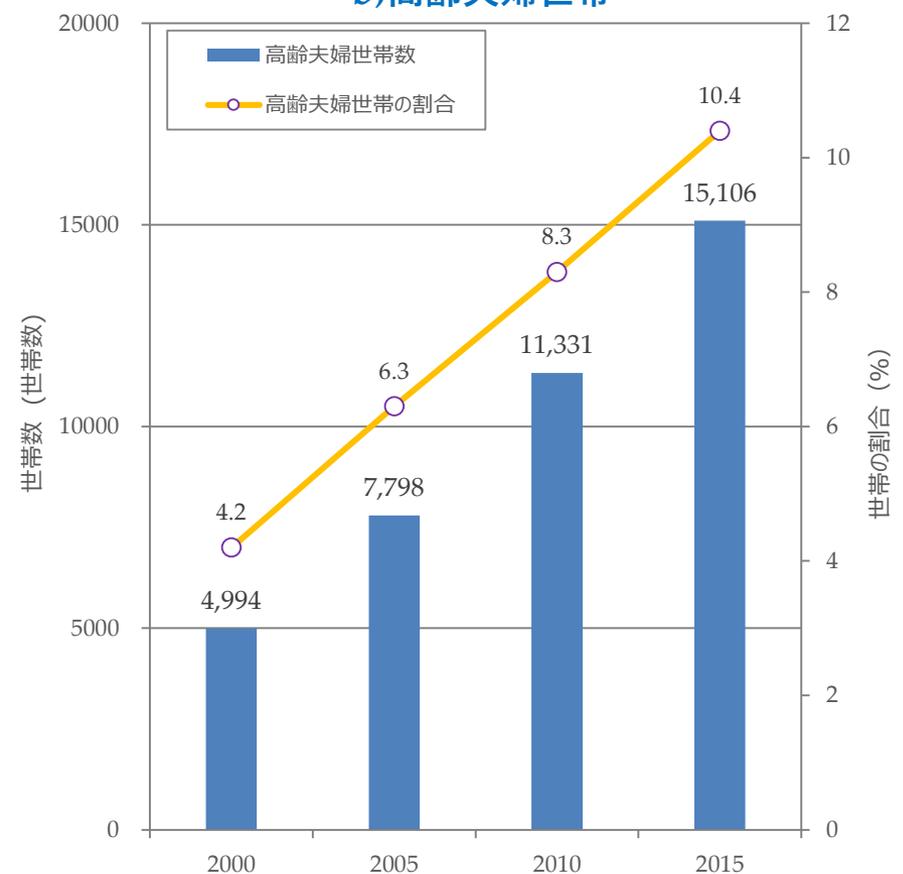
- 2000→2015年間で、一般世帯数は117,582→145,563世帯に増加している(増加率23.8%)。
- 一方、高齢独居世帯は4,546→13,464世帯(3.0倍)に、高齢夫婦世帯は4,994→15,106世帯(3.0倍)に増加し、2015年時点でそれぞれ総世帯の9.2%、10.4%に達している。

図表3-2. 高齢独居世帯・高齢夫婦世帯数及び割合の推移

a) 高齢独居世帯



b) 高齢夫婦世帯



(川越市の高齢者・介護保険を巡る状況)

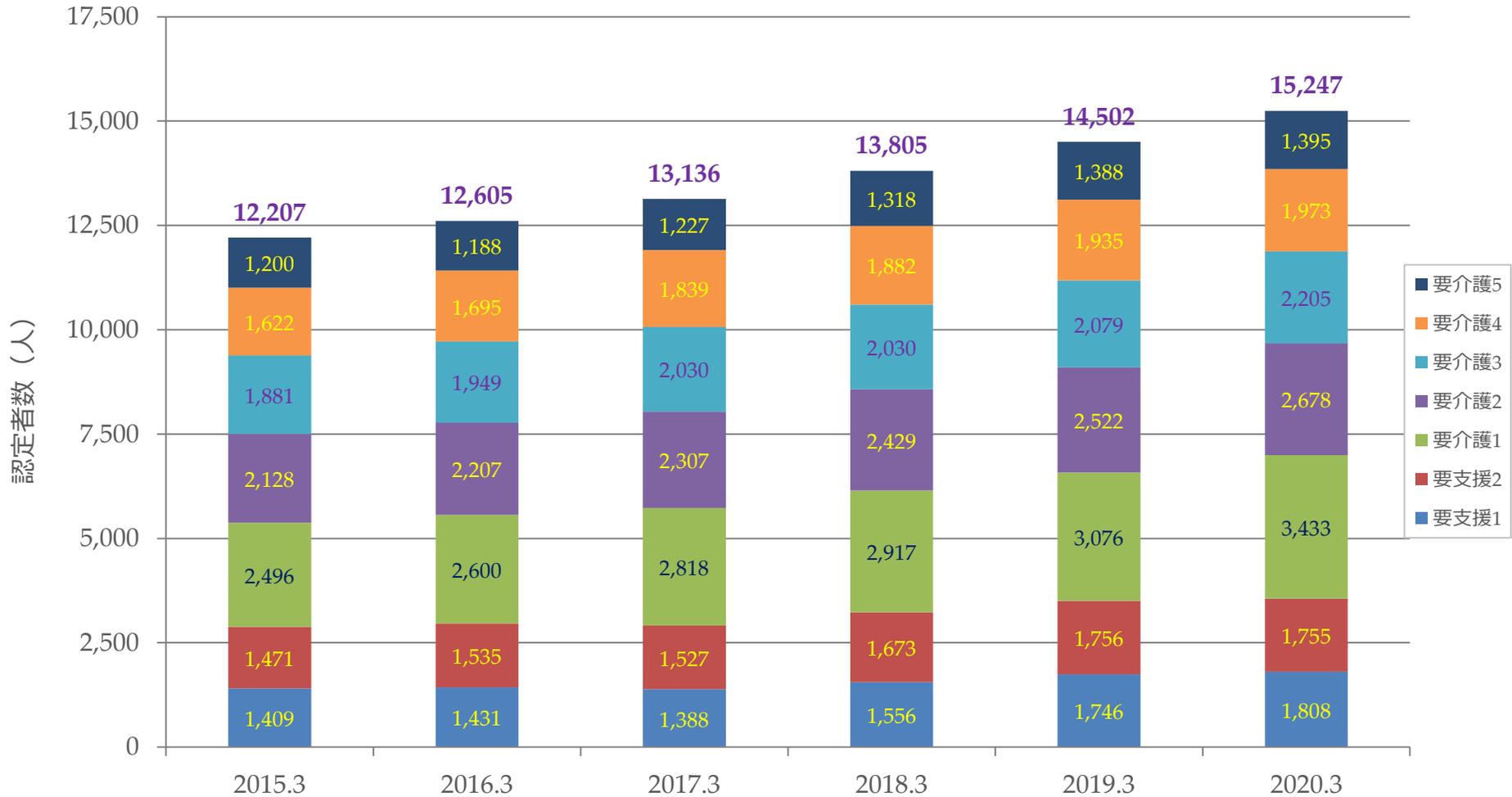
4. 認定者の状況

① 認定者数の推移

要介護度別にみた認定者数の推移（第1号＋第2号被保険者）

- 2015→2020年間で、要介護認定者は12,207→15,247人(3,040人、1.2倍)に増加している。
- これを要介護度別にみると、要支援1・2は683人、要介護1・2は1,487人、要介護3～5は870人の増加であった。

図表4-1-1. 要介護度別にみた認定者数の推移

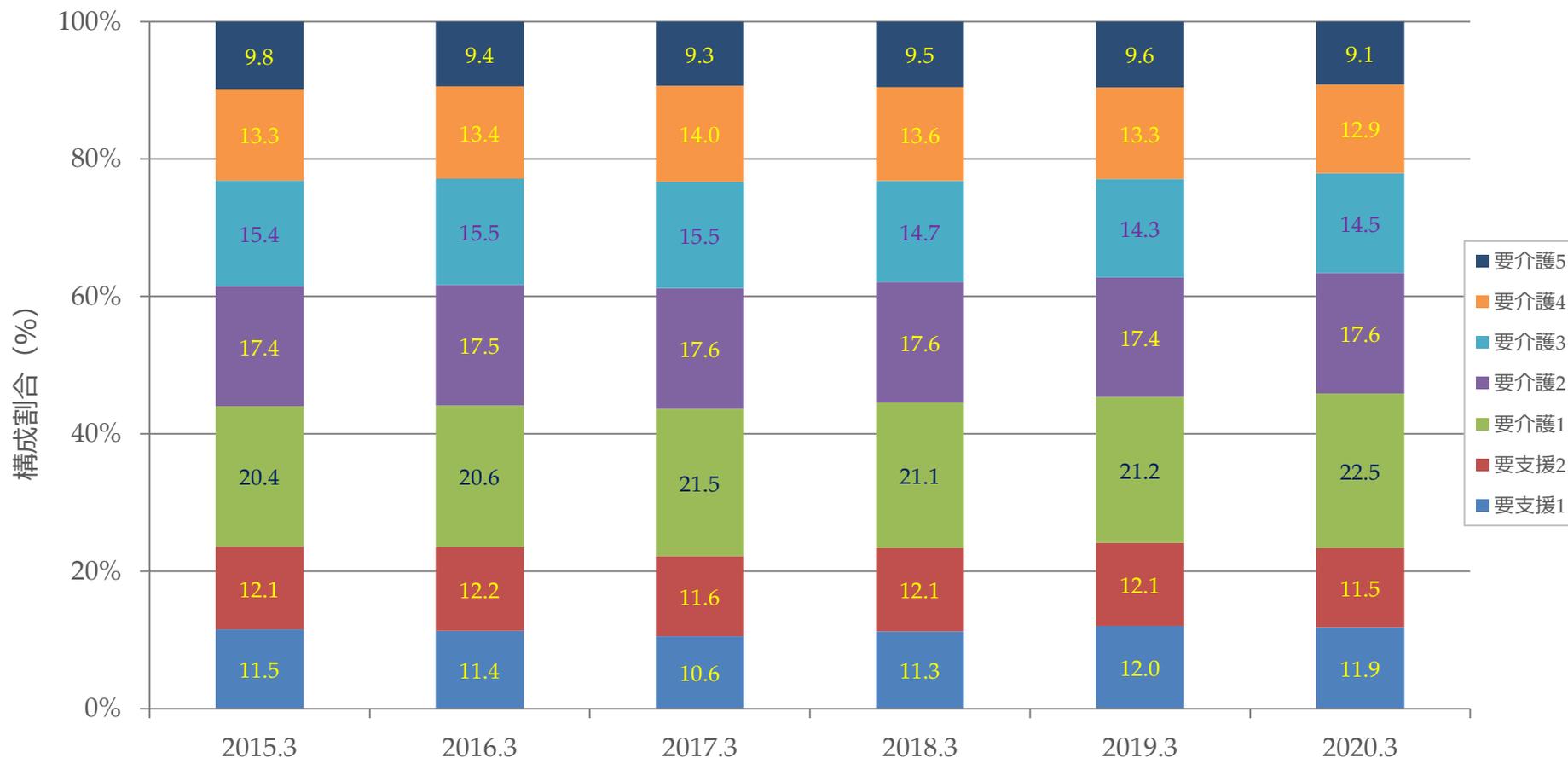


出所) 厚生労働省：地域包括ケア「見える化」システムより作成。各年3月末。認定者には第2号の認定者を含んでいる。

要介護度別にみた認定者数の構成割合の推移（第1号＋第2号被保険者）

- 2020年3月の認定者をみると、「要介護1」が22.5%と最も多く、次いで「要介護2」17.6%、「要介護3」14.5%、「要介護4」12.9%の順であった。
- 2015年と比較すると、「要介護1」が2.1ポイント、「要支援1」が0.4ポイント、「要介護2」が0.2ポイント増加しているのに対し、「要支援2」は0.6ポイント、「要介護5」は0.7ポイント、「要介護3」は0.9ポイント減少していた。

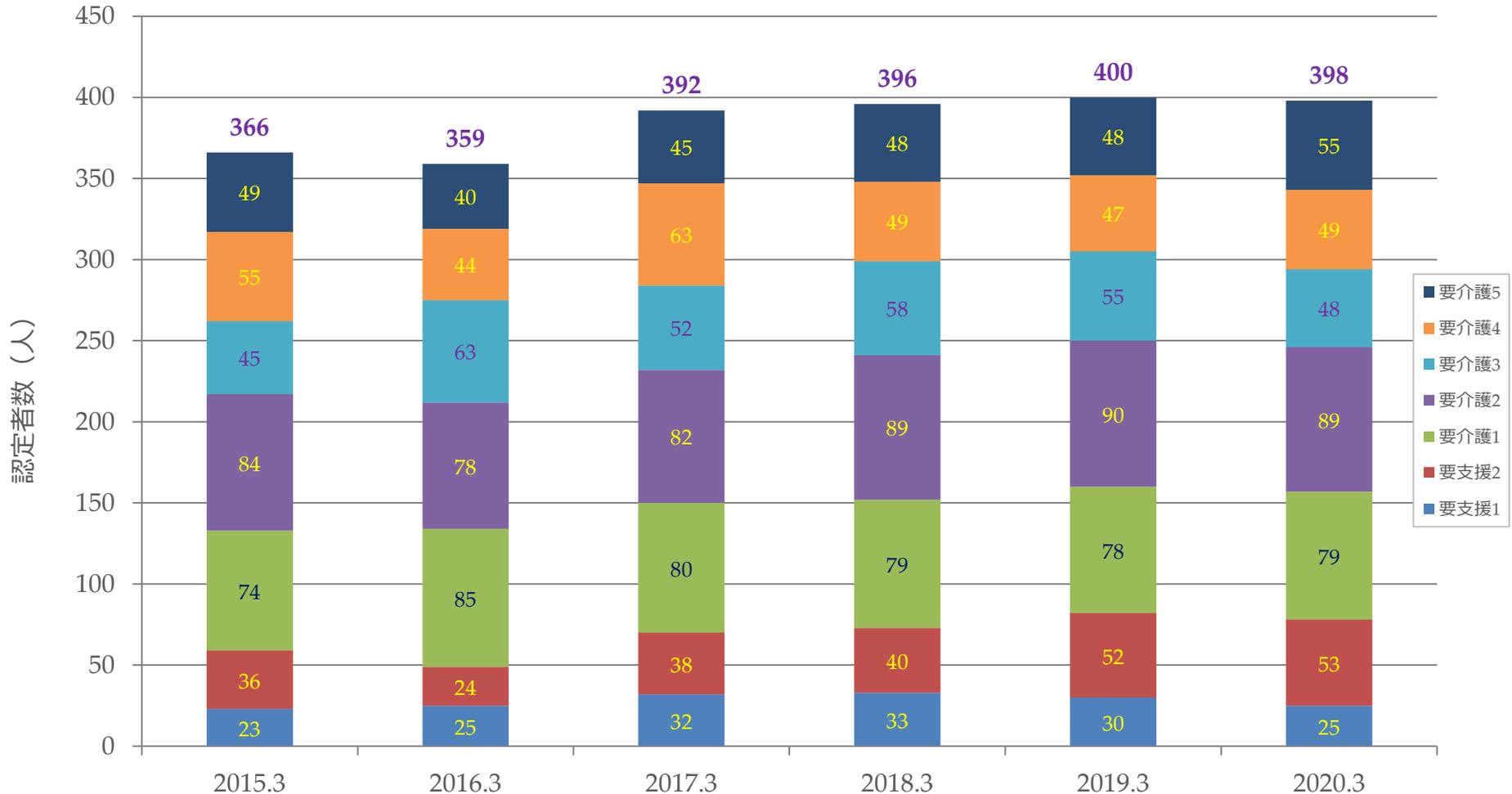
図表4-1-2. 要介護度別にみた認定者数の構成割合の推移



要介護度別にみた認定者数の推移（40～64歳）

- 40～64歳の認定者数は、2020年3月現在で398人となっている。

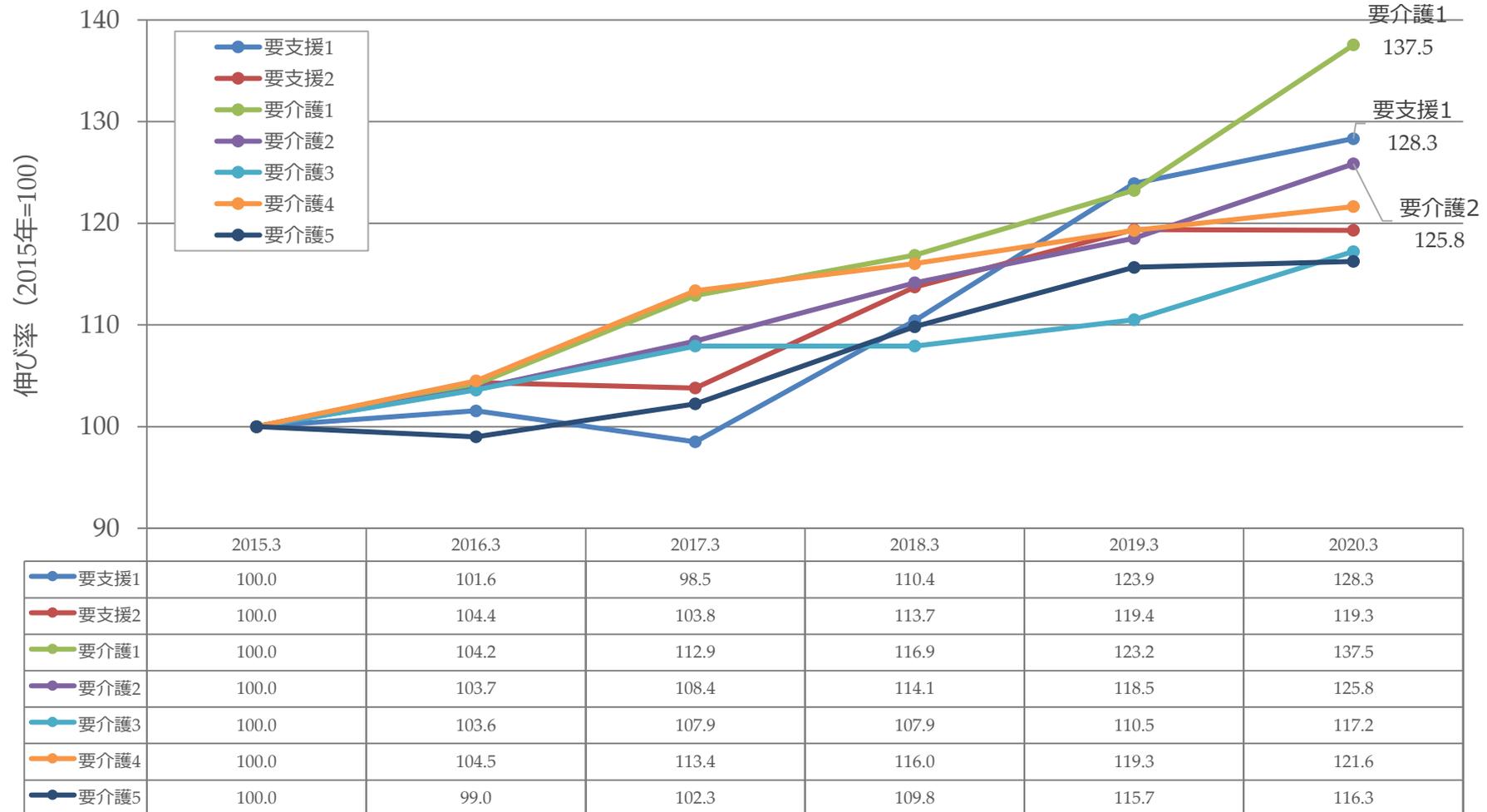
図表4-1-3. 要介護度別にみた40～64歳の認定者数の推移



要介護度別にみた認定者数の伸び率（2015.3を100とした場合）

- 2015→2020年間の認定者数の伸び(2015年3月=100)を要介護度別にみると、「要介護1」が1.38倍と最も高く、次いで「要支援1」1.28倍、「要介護2」1.26倍の順となっている。

図表4-1-4. 要介護度別認定者数の伸び率



②認定率の状況

65歳以上認定率の推移及び全国・県平均との比較（実績ベース）

- 当市の認定率(65歳以上認定者数／第1号被保険者数)は、2010年の13.0%が、2020年3月時点で15.7%となっている。2017年以降、65歳以上認定率の増加傾向がの強くなっている。
- 2020年3月末の65歳以上認定率は、全国平均を2.8ポイント下回り、県平均を0.3ポイント上回っている。

図表4-2-1. 65歳以上認定率の推移（実績ベース）

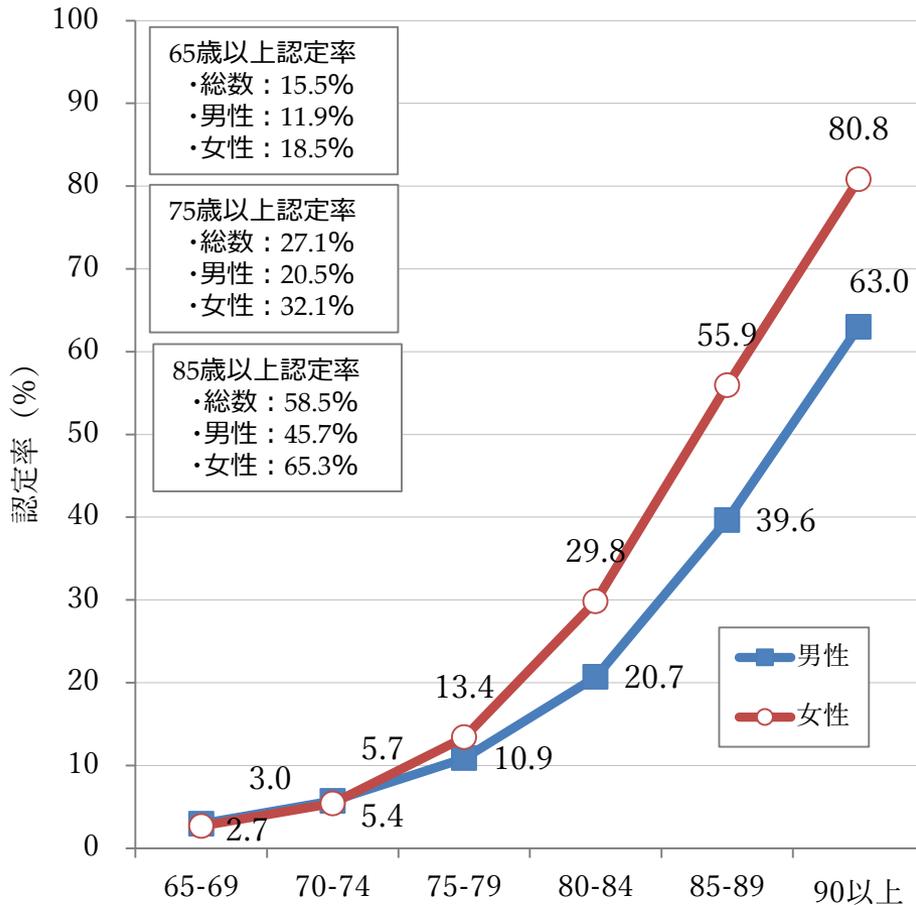


性別年齢階級別にみた認定率 (2019.9末時点)

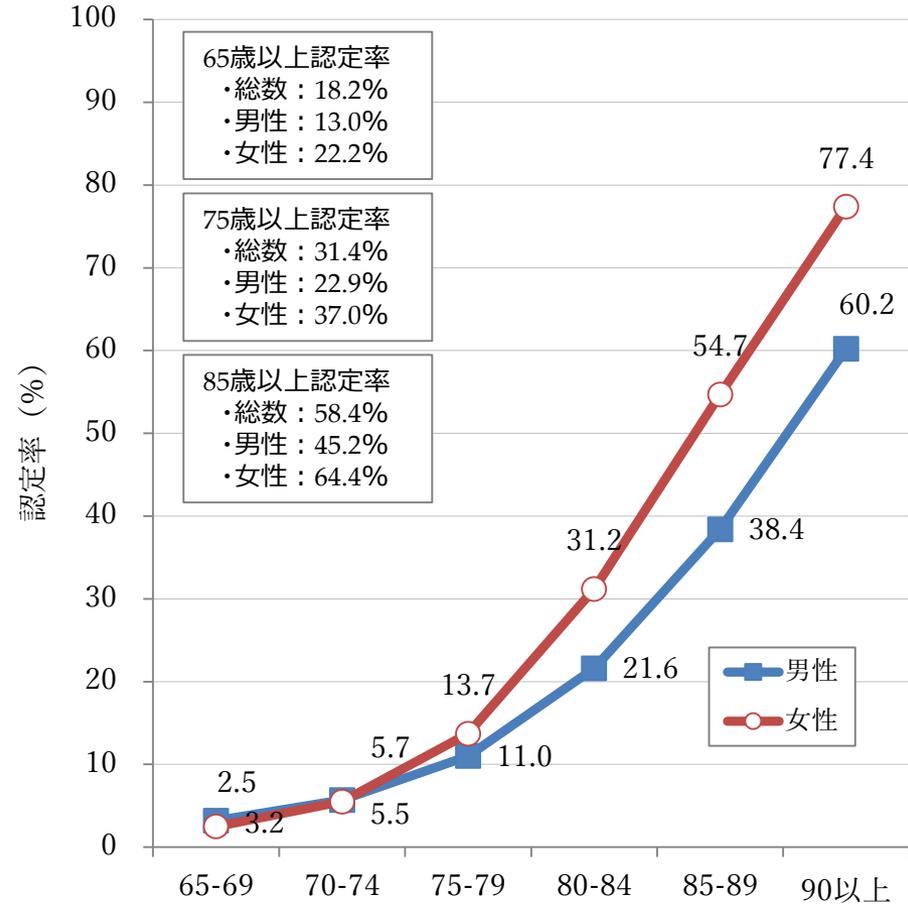
- 2019.9末時点の65歳以上認定率は15.5%で、性別では、「男性」11.9%、「女性」18.5%であった。
- 川越市の性別年齢階級別認定率は、85歳以上の年齢階級において、全国を上回っていた。

図表4-2-3. 性別年齢階級別に見た認定率

a)川越市



b)全国



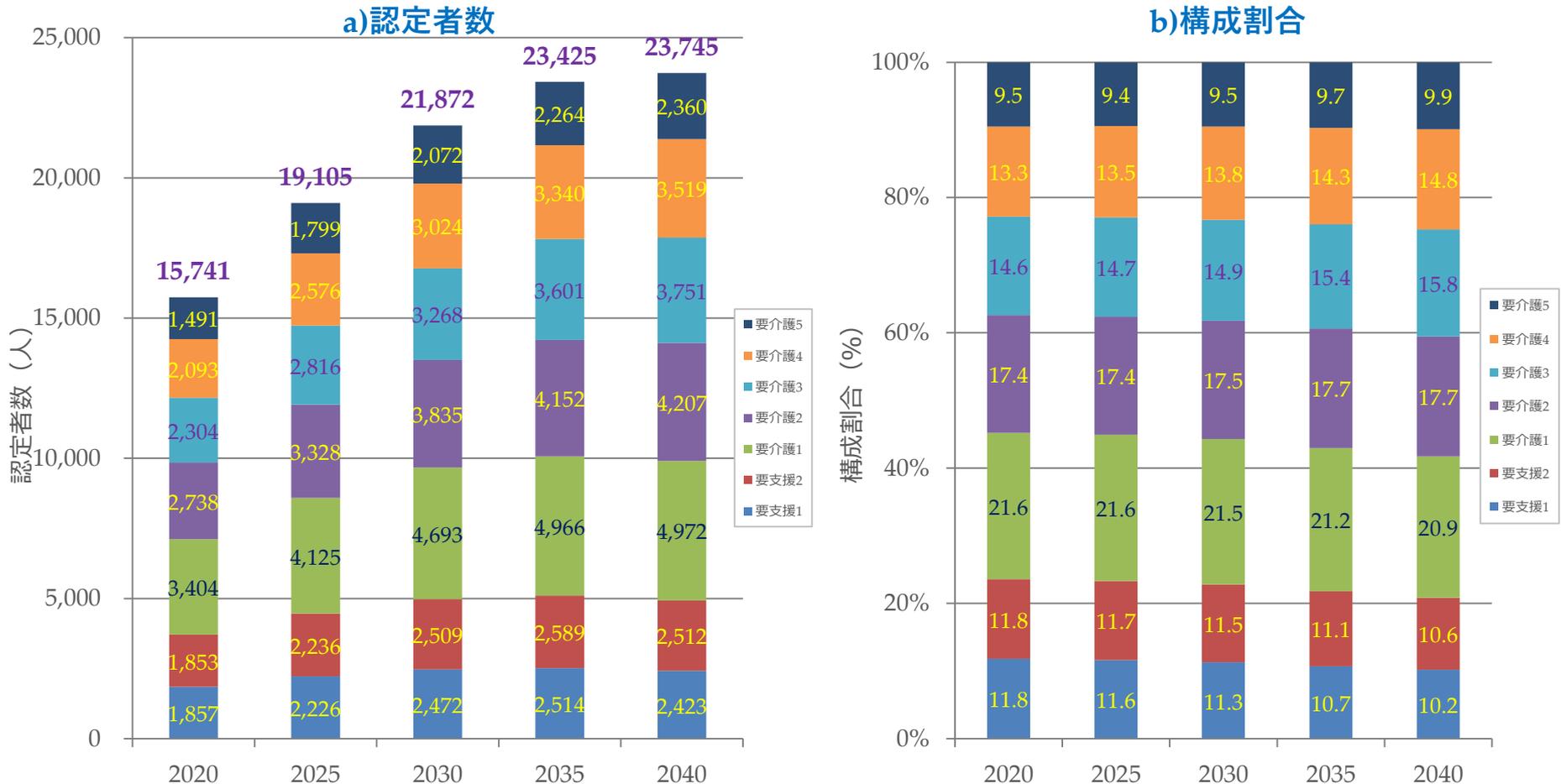
③ 認定者数の将来推計

(2020.3時点の性別年齢階級別要介護度別にみた認定者の出現率が
将来的に同じと仮定した場合)

認定者数の将来推計（要介護度別）

- 2019.9月時点の性別年齢階級別要介護度別認定率で推移したと仮定すると、要介護認定者は、2020年の15,741人から、2040年には23,745人(1.6倍)に増加すると推計された。
- 認定者数のピークは2040年の23,745人と推計された。

図表4-3-1. 要介護度別にみた認定者数及び構成割合の将来推計

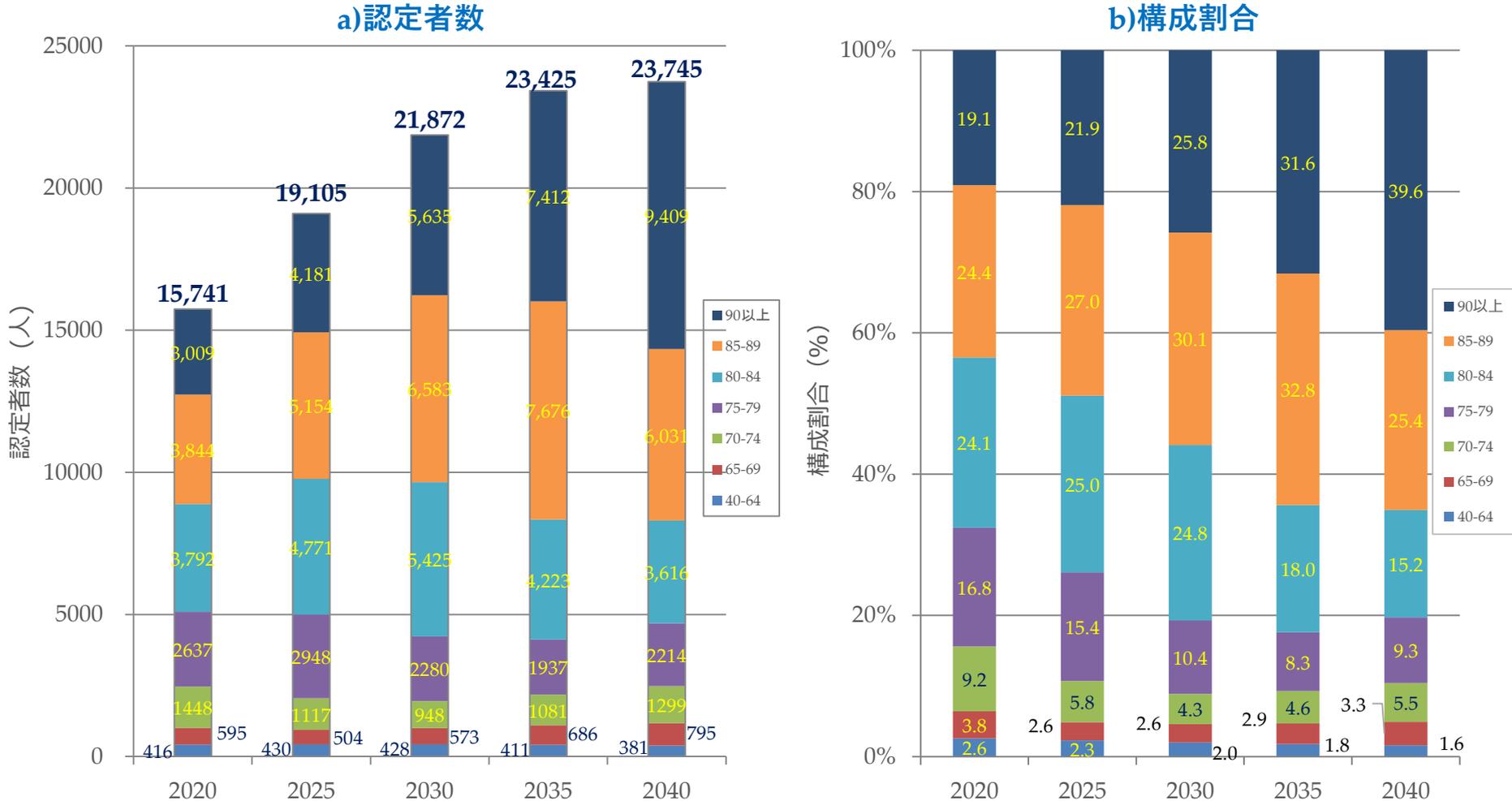


出所) 国立社会保障・人口問題研究所：日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）、厚生労働省「介護保険事業状況報告」令和元年9月分、川越市人口データ、認定データより作成

認定者数の将来推計（年齢階級別）

- 2040年の推計認定者(23,745人)を年齢階級にみると、「40-64歳」は381人(1.6%)であった。また、「90歳以上」は9,409人と、認定者の39.6%を占めると推計された。

図表4-3-2. 年齢階級別に見た認定者数及び構成割合の将来推計



④要介護度の変化

3年間の要介護度の変化（2016.9末時点の認定者，n=12,404）

- 2016.9末時点の認定者12,404人の3年後の認定状況を見ると、「要支援・要介護者」7,557人(60.9%)、「死亡」3,994人(32.2%)、「その他(認定申請なし)」676人(5.4%)、「転出」10人(0.1%)の順であった。
- 2時点とも要支援・要介護状態であった7,557人の要介護度の変化を見ると、「維持」2,944人(39.6%)、「改善」953人(12.6%)、「重度化」3,610人(47.8%)であった。

図表4-4-1. 要介護度の変化（2016.9と2019.9間の推移）

人数 (人)		2019.9末時点											
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	転出	死亡	その他喪失	その他	合計
2016.9末時点	要支援1	295	219	180	91	47	41	20	0	191	15	215	1314
	要支援2	117	425	222	134	76	53	25	4	230	26	102	1414
	要介護1	57	86	613	505	257	171	103	2	590	41	119	2544
	要介護2	7	38	182	515	382	207	103	1	630	40	72	2177
	要介護3	5	4	36	109	430	325	211	3	758	19	50	1950
	要介護4	3	5	20	45	116	390	238	0	852	15	62	1746
	要介護5	3	1	9	6	19	85	326	0	743	11	56	1259
	合計	487	778	1262	1405	1327	1272	1026	10	3994	167	676	12404

割合 (%)		2019.9末時点											
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	転出	死亡	その他喪失	その他	合計
2016.9末時点	要支援1	22.5	16.7	13.7	6.9	3.6	3.1	1.5	0.0	14.5	1.1	16.4	100.0
	要支援2	8.3	30.1	15.7	9.5	5.4	3.7	1.8	0.3	16.3	1.8	7.2	100.0
	要介護1	2.2	3.4	24.1	19.9	10.1	6.7	4.0	0.1	23.2	1.6	4.7	100.0
	要介護2	0.3	1.7	8.4	23.7	17.5	9.5	4.7	0.0	28.9	1.8	3.3	100.0
	要介護3	0.3	0.2	1.8	5.6	22.1	16.7	10.8	0.2	38.9	1.0	2.6	100.0
	要介護4	0.2	0.3	1.1	2.6	6.6	22.3	13.6	0.0	48.8	0.9	3.6	100.0
	要介護5	0.2	0.1	0.7	0.5	1.5	6.8	25.9	0.0	59.0	0.9	4.4	100.0
	合計	3.9	6.3	10.2	11.3	10.7	10.3	8.3	0.1	32.2	1.3	5.4	100.0

注) その他とは、2017.3末時点で認定があったもののうち、2020.3末時点で、認定情報がなく、かつ、転出も死亡もその他の喪失にも該当しなかった者のこと。

出所) 川越市要介護認定データ(2020.3)をもとに作成

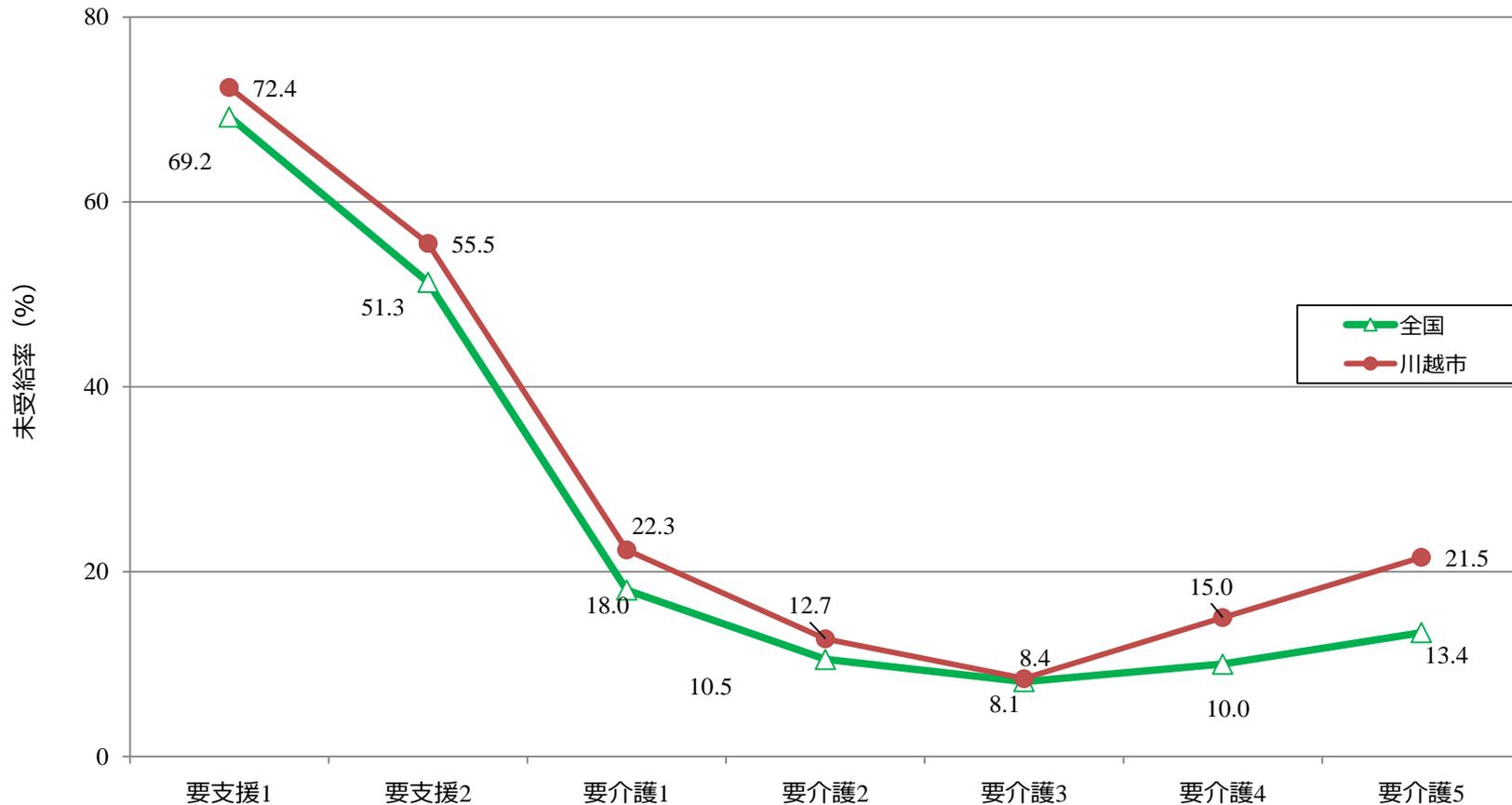
5. サービス受給／給付の状況

① サービス未受給の状況

要介護度別にみた未受給率の比較

- 川越市の介護サービス未受給率は、すべての要介護度で全国平均を下回っていた。
- 要介護度別にみた未受給率は、「要支援1」72.4%、「要支援2」55.5%、「要介護1」22.3%の順であった。

図表5-1-1. 要介護度別にみたサービス未受給率の状況

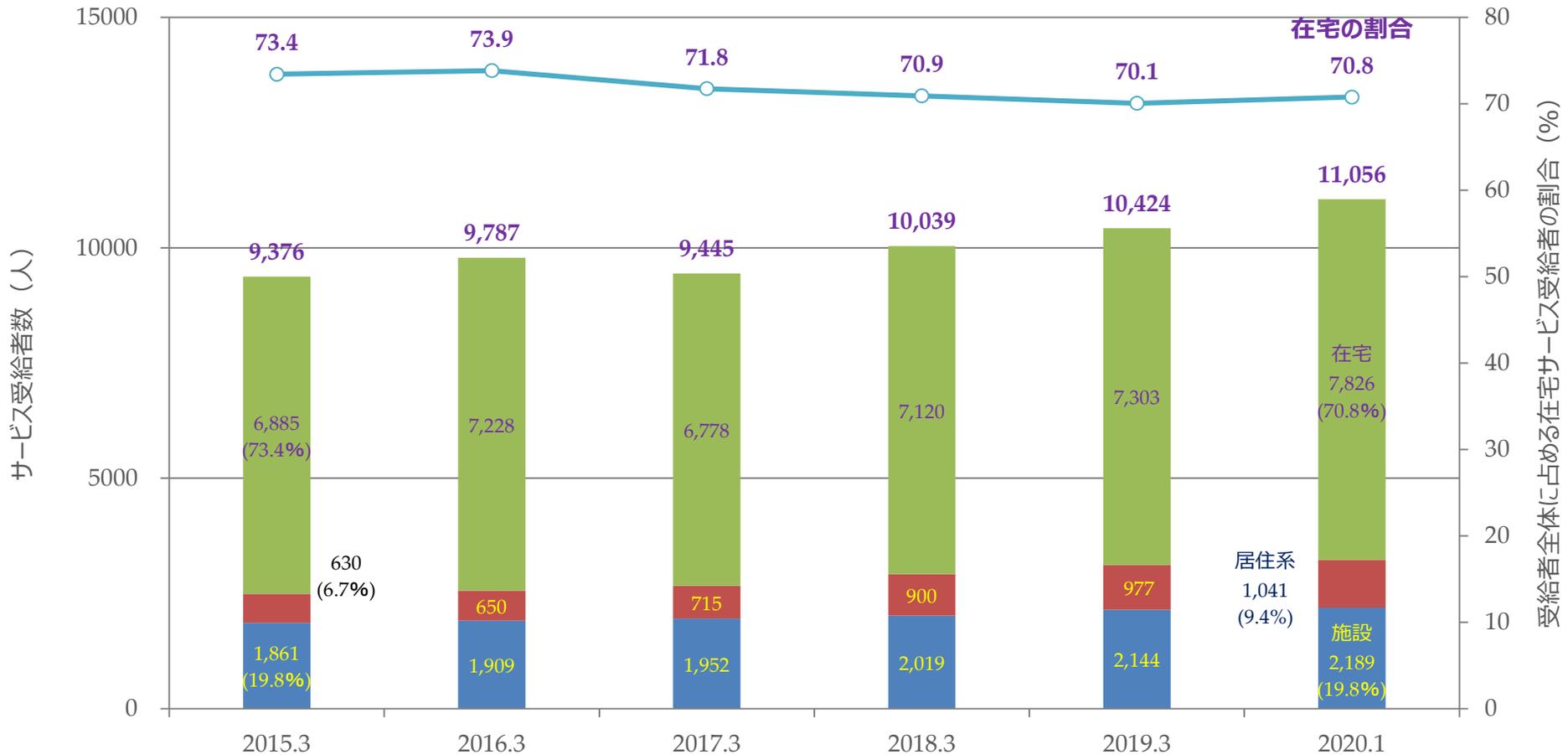


②サービス受給者数

所在地別にみたサービス受給者数の推移（各年3月）

- 2020年1月時点のサービス受給者は11,056人で、これをサービス区分別にみると、「在宅」7,826人(70.8%)、「居住系」1,041人(9.4%)、「施設」2,189人(19.8%)であった。
- 2015→2020年間で、「在宅」941人(13.7%)、「居住系」411人(65.2%)、「施設」328人(17.6%)の増加であった。

図表5-2-1. サービス区分別にみたサービス受給者数と在宅が占める割合の推移

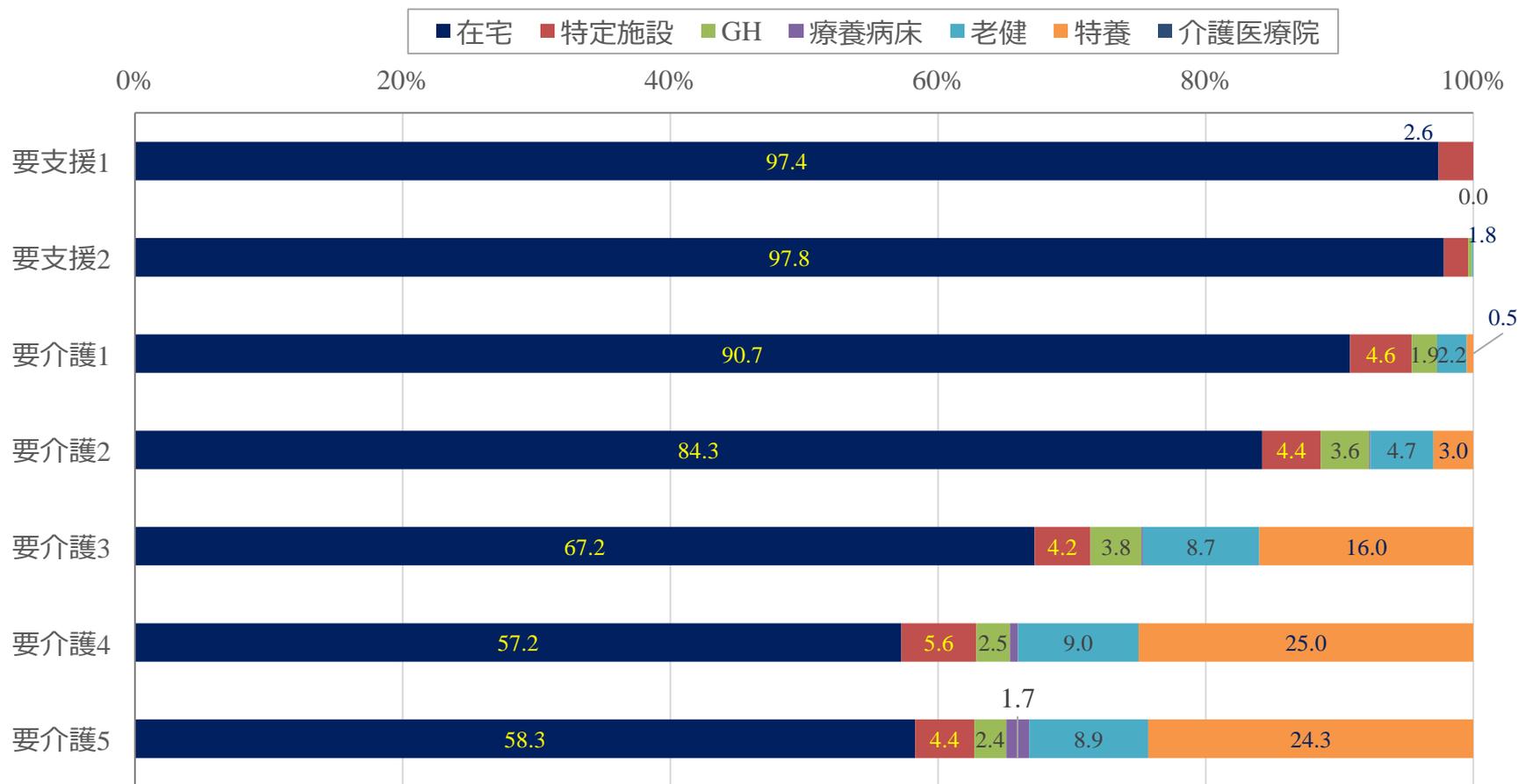


出所) 厚生労働省：地域包括ケア「見える化」システムより作成。各年3月。2020年のみ1月時点。

要介護度別にみた療養場所別認定者数（2019.9末時点）

- 2019年3月末時点の認定者14,866人の在宅療養率を要介護度別にみると、「要介護1」90.7%、「要介護2」84.3%、「要介護3」67.2%、「要介護4」57.2%、「要介護5」58.3%と、要介護3から急減していた。
- 要介護3からは、特養利用者が急増し、要介護4では25.0%、要介護5では24.3%を占めていた。

図表5-2-2. 要介護度別にみた療養場所別認定者数の割合

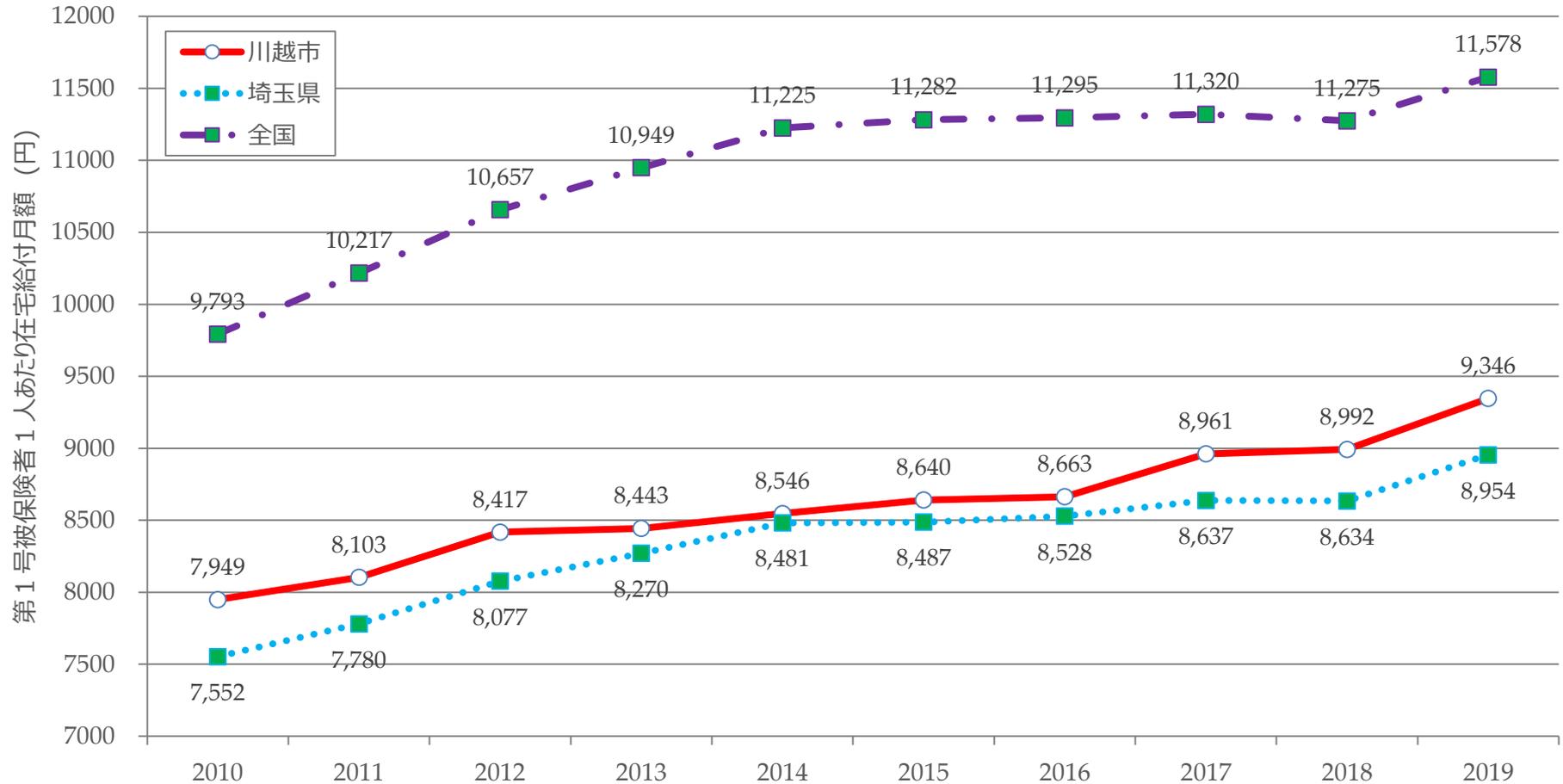


③費用

第1号被保険者1人あたり給付月額の推移（在宅サービス）

- 2020年1月時点の第1号被保険者1人あたりの在宅サービス給付月額は、「全国」11,578円、「埼玉県」8,954円、「川越市」9,346円であった。
- 川越市の在宅給付月額は2010年以降、緩やかに増加している。

図表5-3-1. 第1号被保険者1人あたり給付月額(在宅サービス)の推移

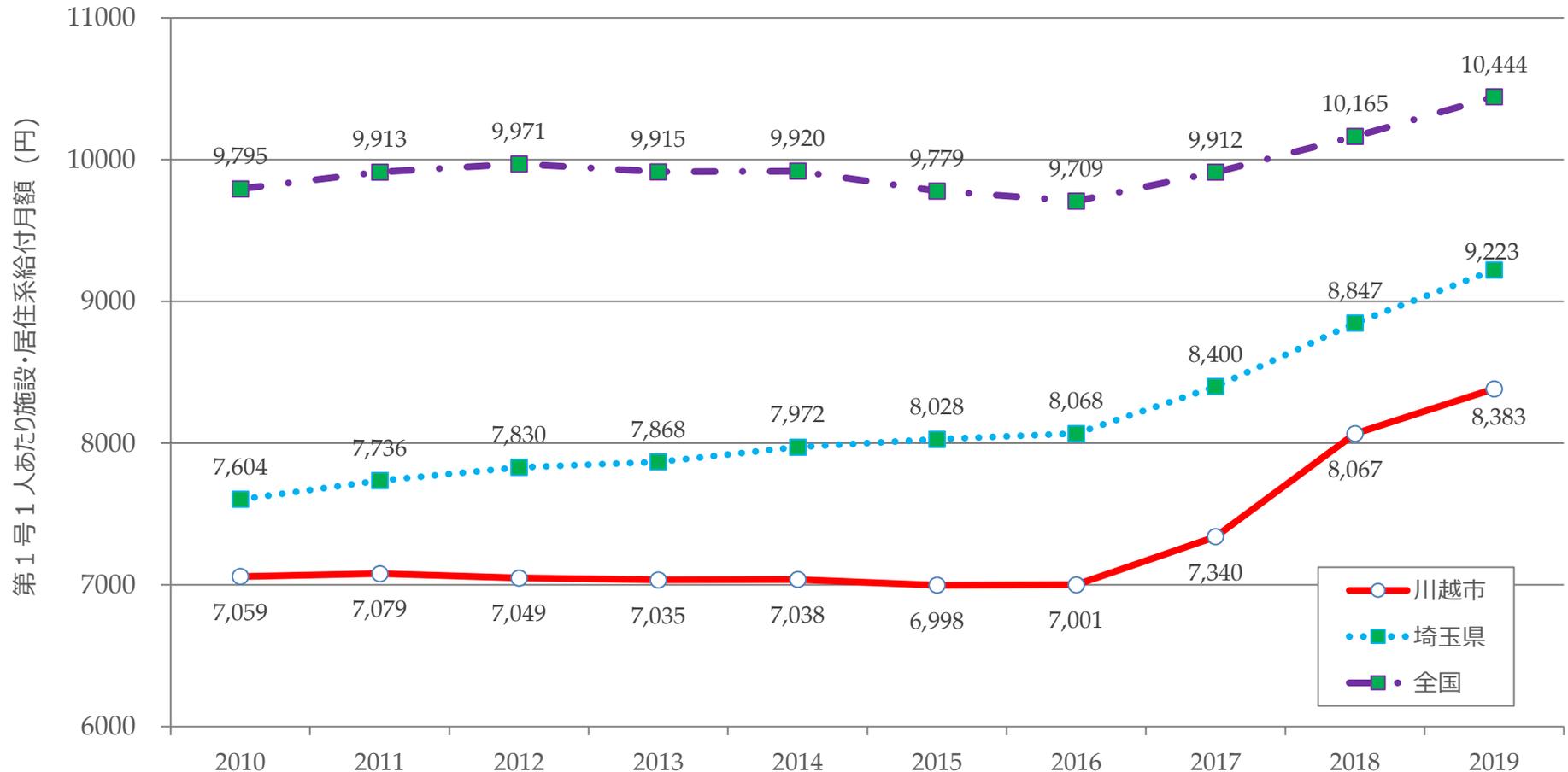


出所) 厚生労働省: 地域包括ケア「見える化」システムより作成 2018年は2019年2月サービス提供分まで。2019年は2020年1月サービス提供分まで。

第1号被保険者1人あたり給付月額の推移（施設・居住系サービス）

- 2020年1月時点の第1号被保険者1人あたりの施設・居住系サービス給付月額は、「全国」10,444円、「埼玉県」9,223円、「川越市」8,383円であった。
- 川越市の給付月額は、2016年以降急激に増加している。

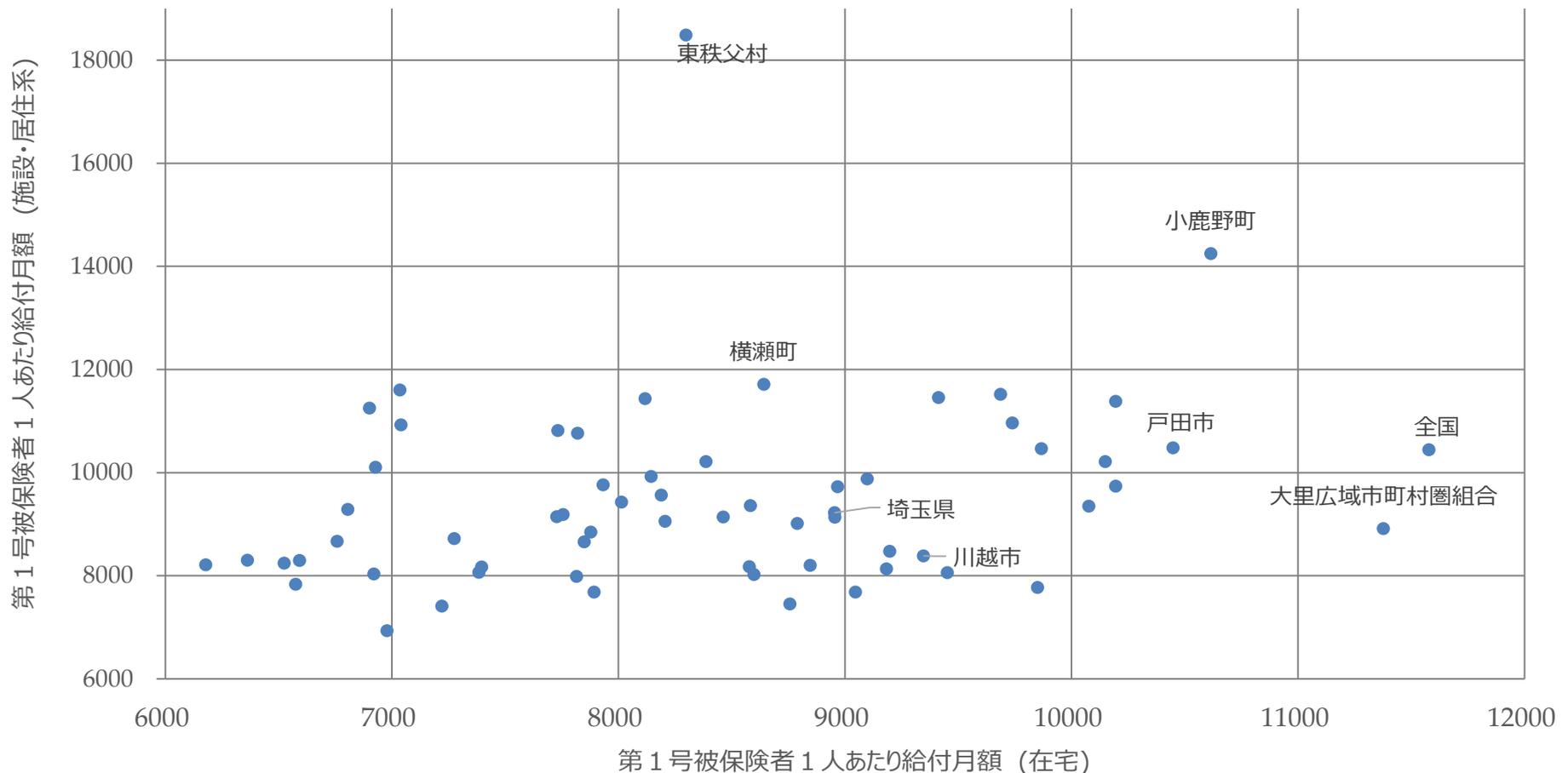
図表5-3-2. 第1号被保険者1人あたり給付月額(施設・居住系サービス)の推移



第1号被保険者1人あたり給付月額（2019年時点）

- 2019年時点の第1号被保険者1人あたり給付月額をみると、在宅サービスでは「大里広域」「小鹿野町」「戸田市」の順、施設・居住系サービスでは「東秩父村」「小鹿野町」「横瀬町」の順であった。
- 川越市の第1号被保険者1人あたり給付月額は、高い方からみて、「在宅」は9,346円で14番目、「施設・居住系」は8,383円で41番目であった。

図表5-3-3. 第1号被保険者1人あたり在宅・施設・居住系給付月額の分布状況



出所) 厚生労働省：地域包括ケア「見える化」システムより作成。

(川越市の高齢者・介護保険を巡る状況)

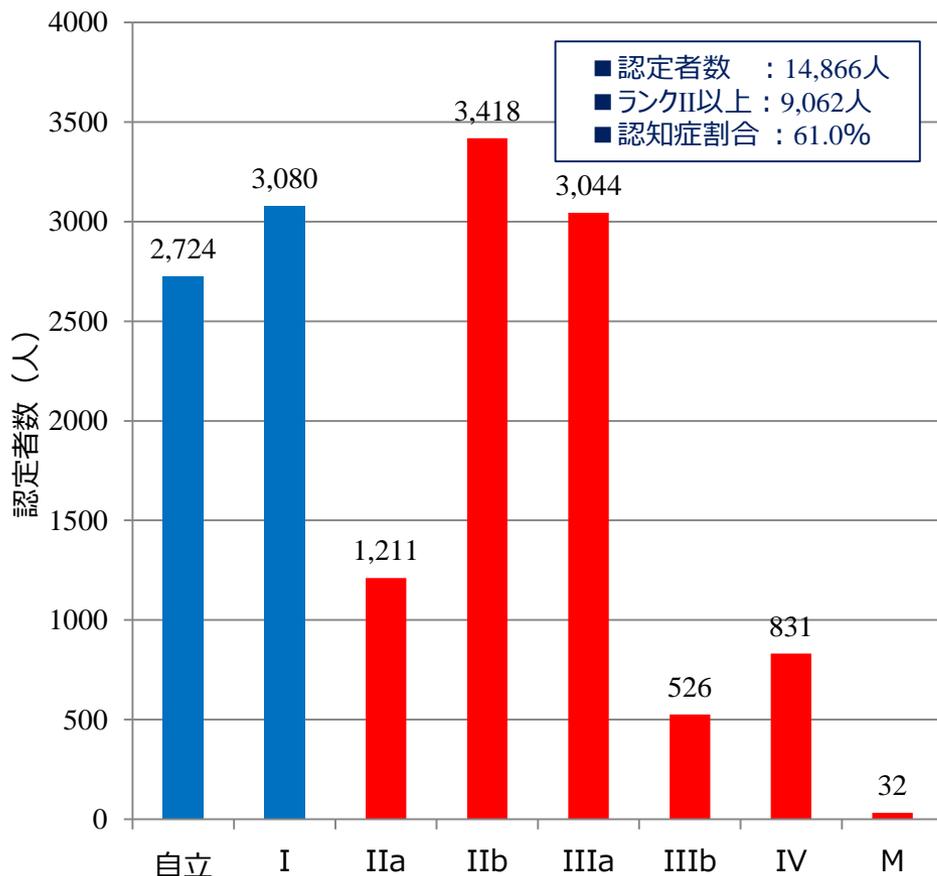
6. 認知症の状況

① 認知症の人数及び割合

認知症自立度別にみた認定者数（2019.9末時点）

- 2019年9月末時点の認定者数は14,866人で、うち「認知症高齢者の日常生活自立度ランクⅡ以上」の者(認知症者)は9,062人(61.0%)となっていた。

図表6-1-1. 認知症自立度別にみた認定者数



参考1 認知症高齢者の日常生活自立度

ランク	判断基準
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。 II a. 家庭外で上記の状態が見られる。(たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等) II b. 家庭内でも上記の状態が見られる。(服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応など一人で留守番ができない等)
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。 III a. 日中を中心として上記の状態が見られる。(着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる。やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等) III b. 夜間を中心として上記の状態が見られる。(症状、行動はIII aに同じ。)
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。(せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等)

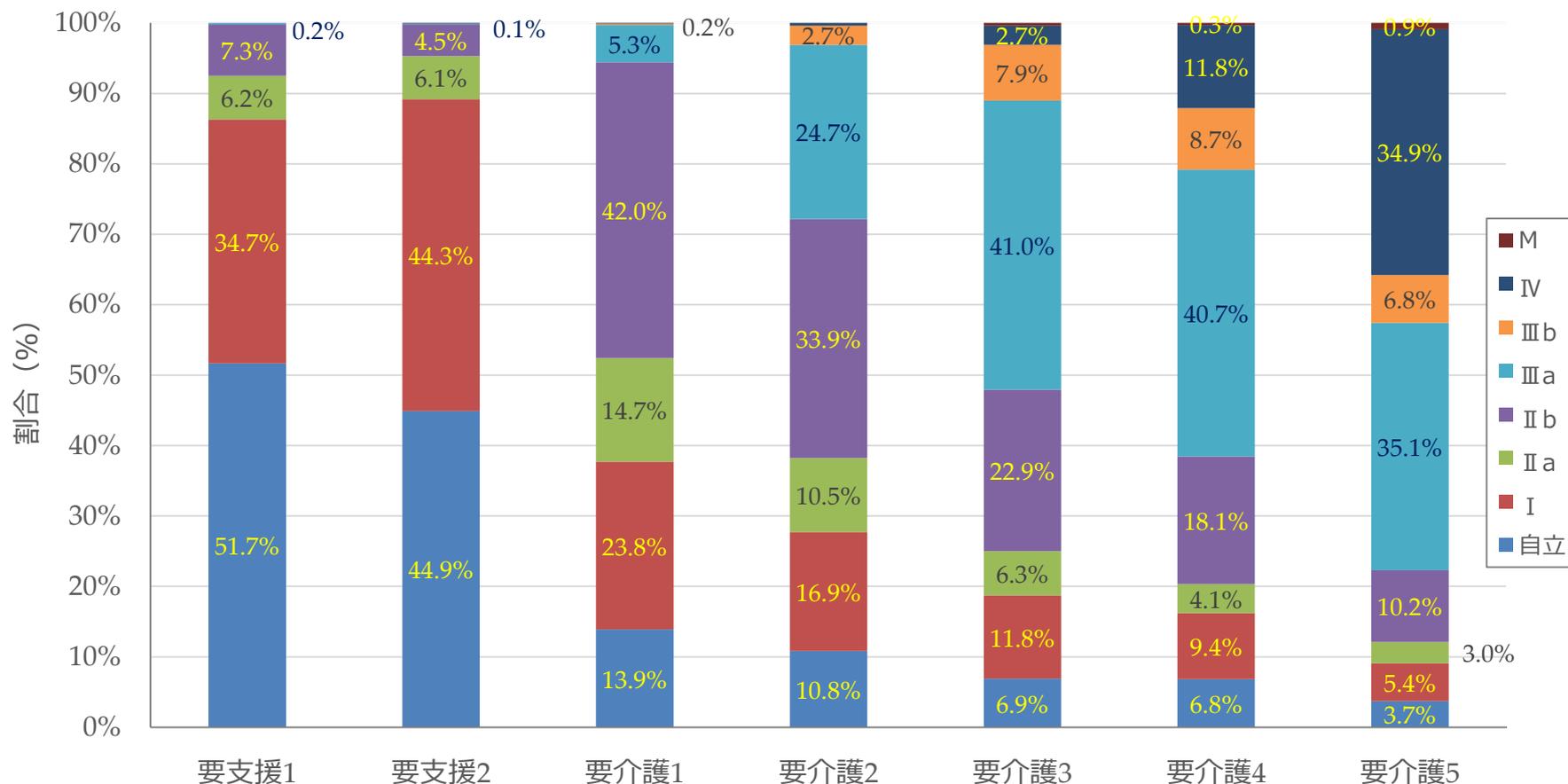
注：本データには第2号被保険者を含む。

出所) 川越市要介護認定データ (2019.9) をもとに作成

要介護度別にみた認知症自立度の分布状況（2019.9末時点）

- 要支援1-2では「自立」、要介護1-2では「ランクIIb」、要介護3-5では「ランクIIIa」が最も多かった。

図表6-1-2. 要介護度別にみた認知症自立度の分布状況



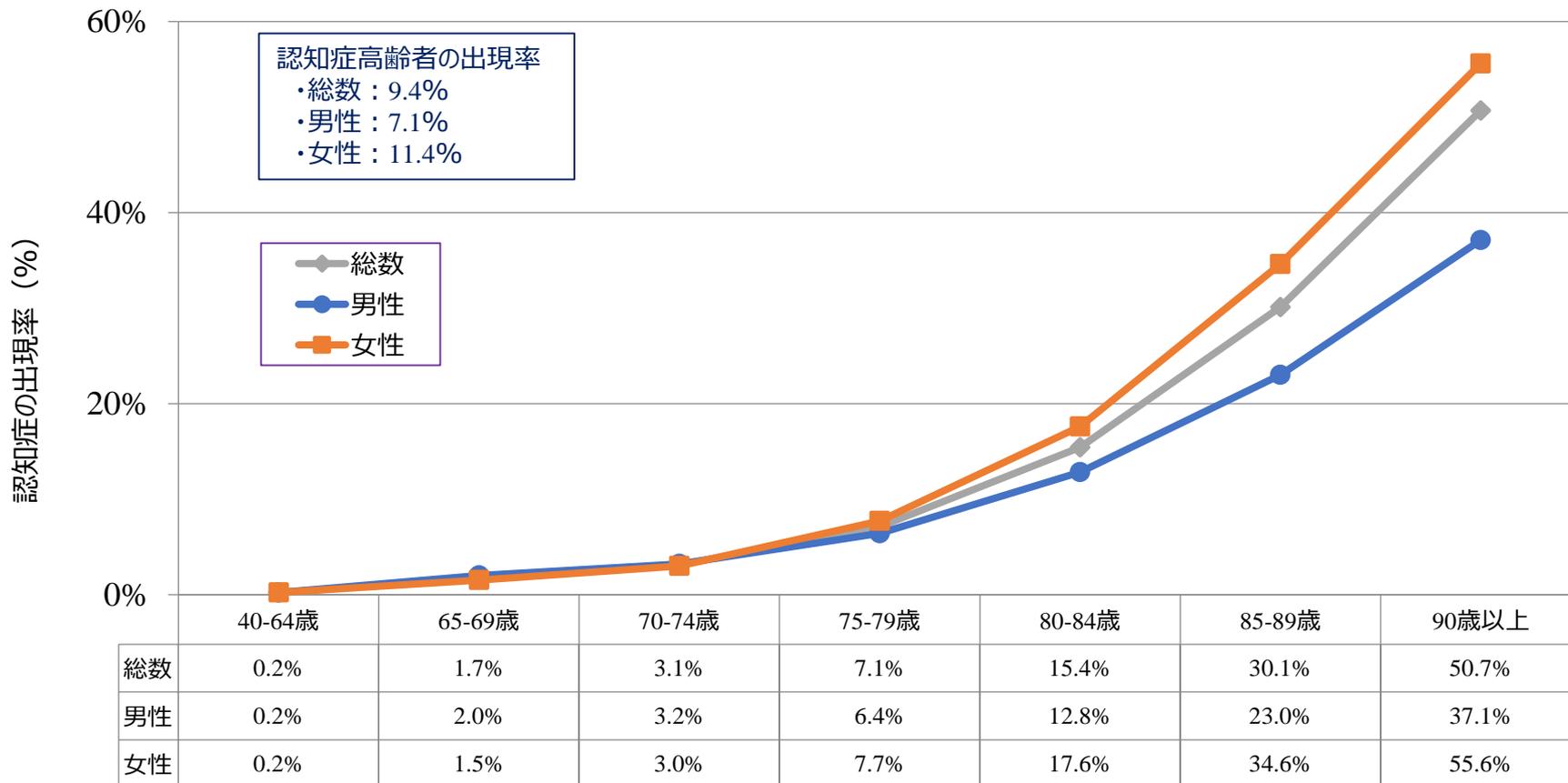
	総数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
ランクII以上の割合 (%)	61.0	13.6	10.8	62.3	72.2	81.3	83.7	91.0

② 認知症の出現率

性別年齢階級別にみた認知症の人の出現率（2019.9末時点）

- 2019年9月末時点の認知症高齢者の出現率は9.4%（男性7.1%、女性11.4%）、「40-64歳」の認知症の人の出現率は0.2%（男性0.2%、女性0.2%）であった。
- 認知症出現率は85歳以降で急激に上昇していた。なお、その傾向は女性で顕著であった。

図表6-2-1. 性別年齢階級別にみた認知症の出現率



注：認知症の出現率は、各年齢階級別人口のうち、認定を受けて認知症自立度がII以上であったの者の割合を指す

出所）川越市の人口データ（2019.9）、要介護認定データ（2019.9）をもとに作成

③ 認知症の人数の将来推計

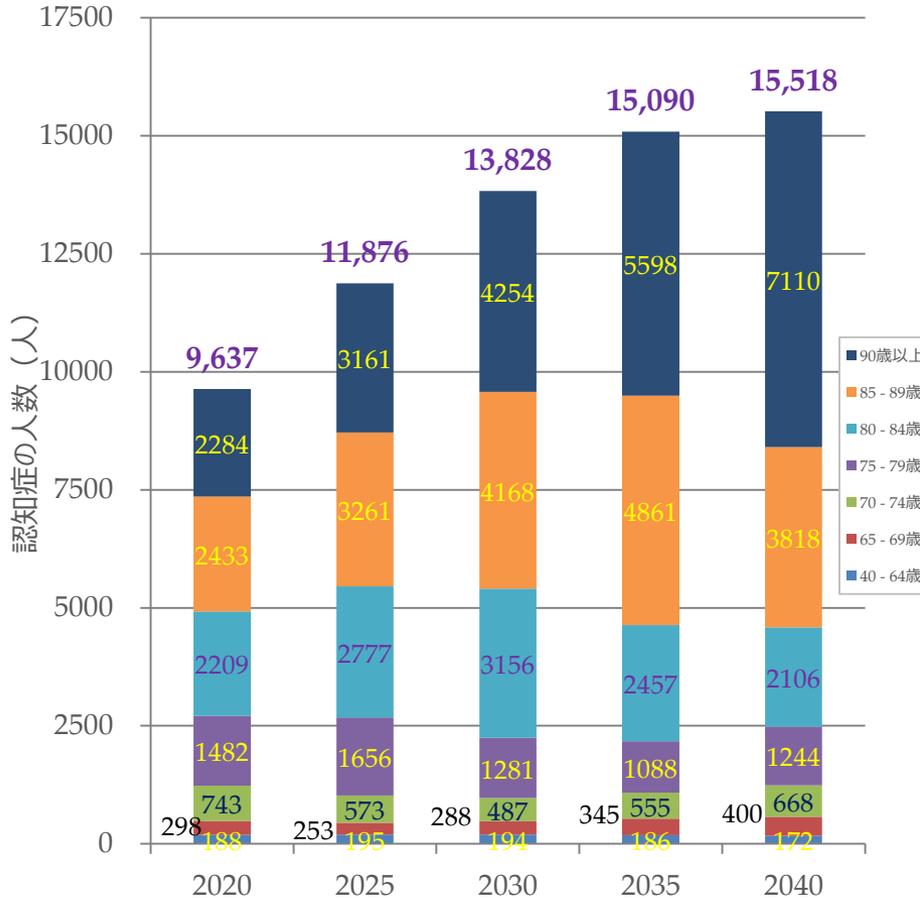
(2019.9時点の性別年齢階級別要介護度別にみた認知症の出現率が
将来的に同じと仮定した場合)

認知症の人数の将来推計（年齢階級別）

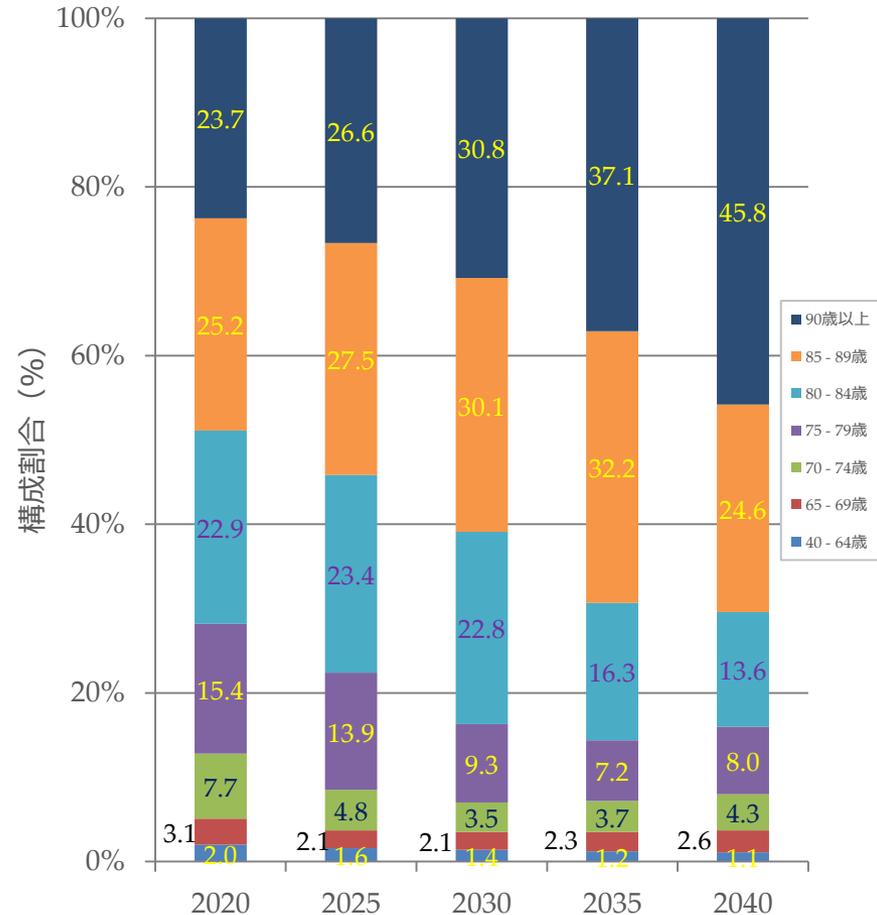
- 2019.9月時点の性別年齢階級別要介護度別認知症の出現率で今後も推移すると仮定した場合、認知症の人数は、2020年の9,636人から、2040年には15,517人(1.6倍)に増加すると推計された。
- 2040年の推計認知症の人のうち、「90歳以上」が45.8%を占めると推計された。

図表6-3-1. 年齢階級別に見た認知症者数及び構成割合の将来推計

a) 認知症の人数



b) 構成割合

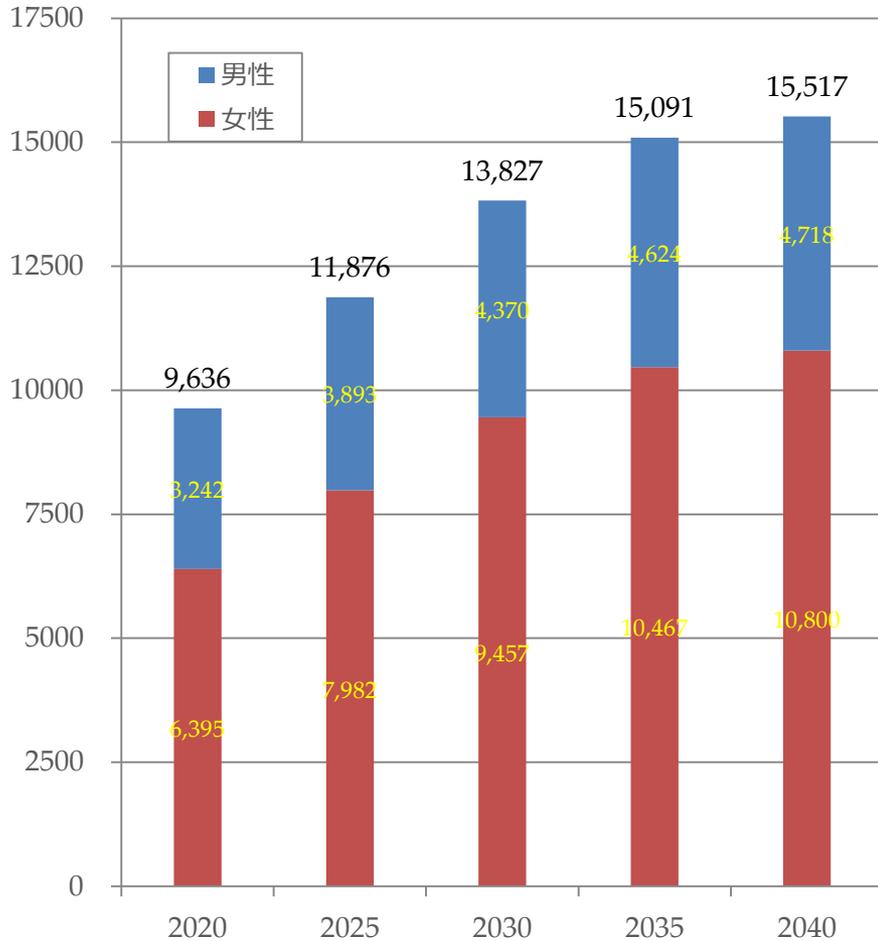


認知症の人数の将来推計（性別）

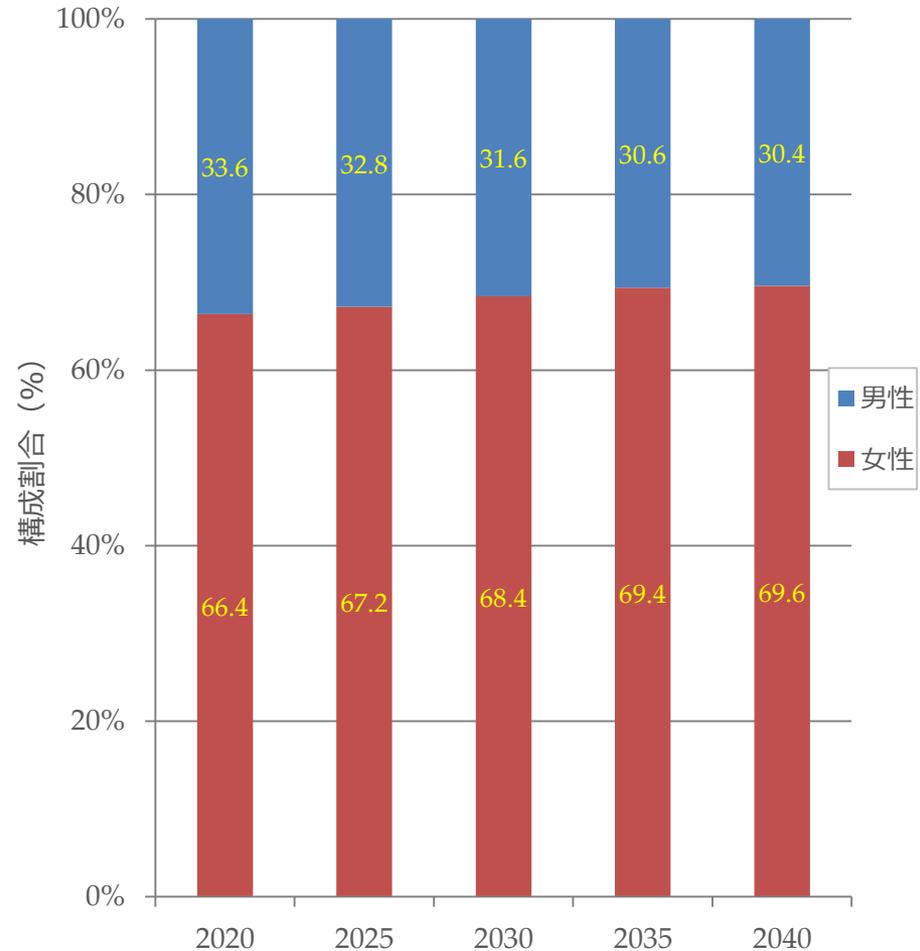
- 2040年の推計認知症の人のうち、「女性」が69.6%を占めると推計された。。

図表6-3-2. 性別にみた認知症者数及び構成割合の将来推計

a) 認知症の人数



b) 構成割合



(川越市の高齢者・介護保険を巡る状況)

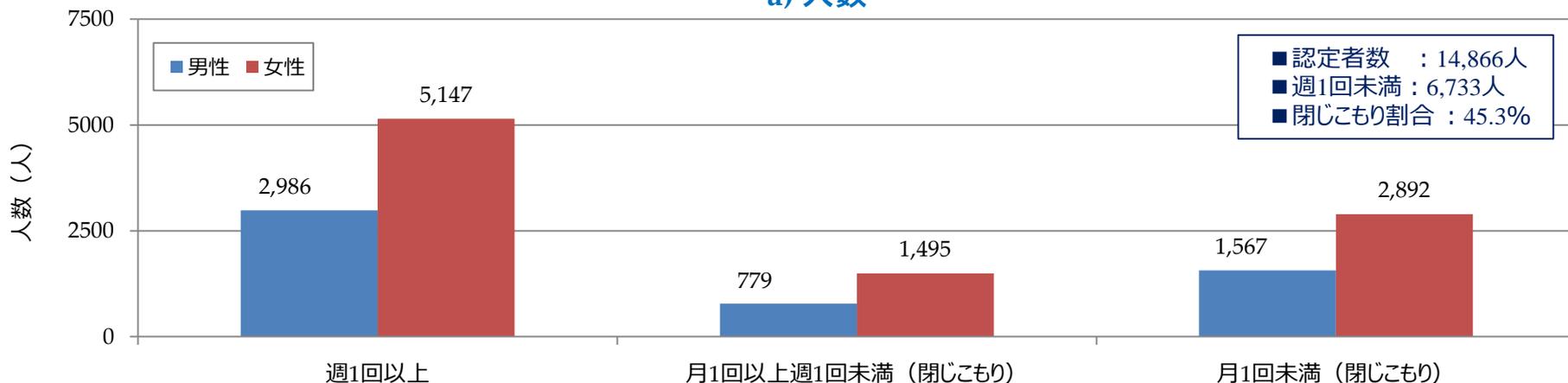
7. 閉じこもりの状況

要支援・要介護認定者の外出頻度の状況（2019.9時点）

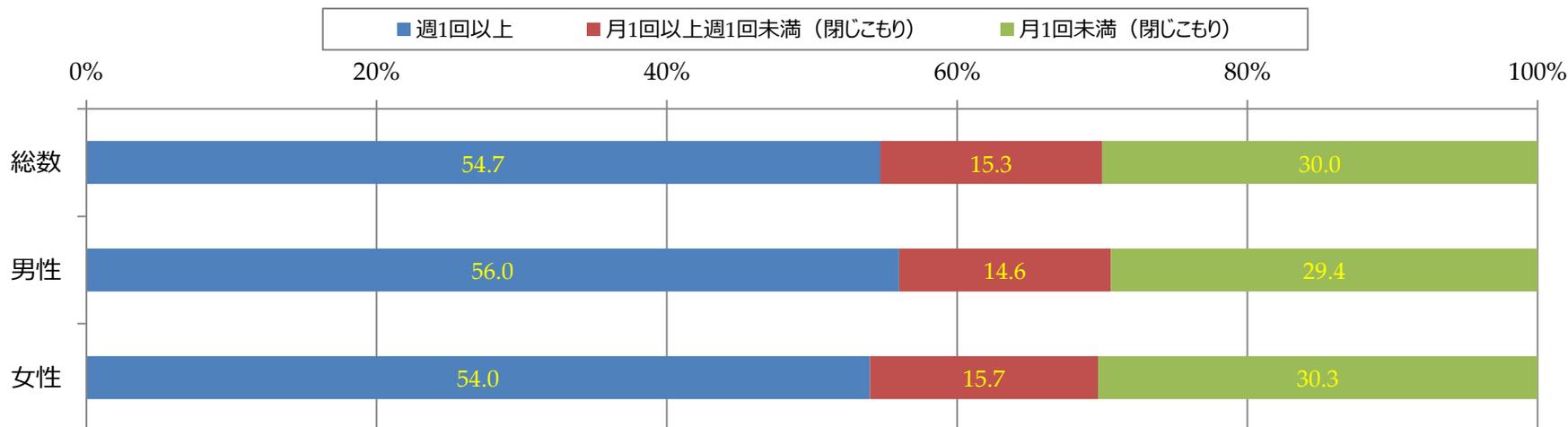
- 2019年9月末時点の認定者数は14,866人で、これを外出頻度別にみると、週1回未満（＝閉じこもり状態）は6,733人(45.3%)であった。性別にみた閉じこもり者の割合は、「男性」44.0%、「女性」46.0%であった。

図表7-1. 性別にみた外出頻度の状況

a) 人数



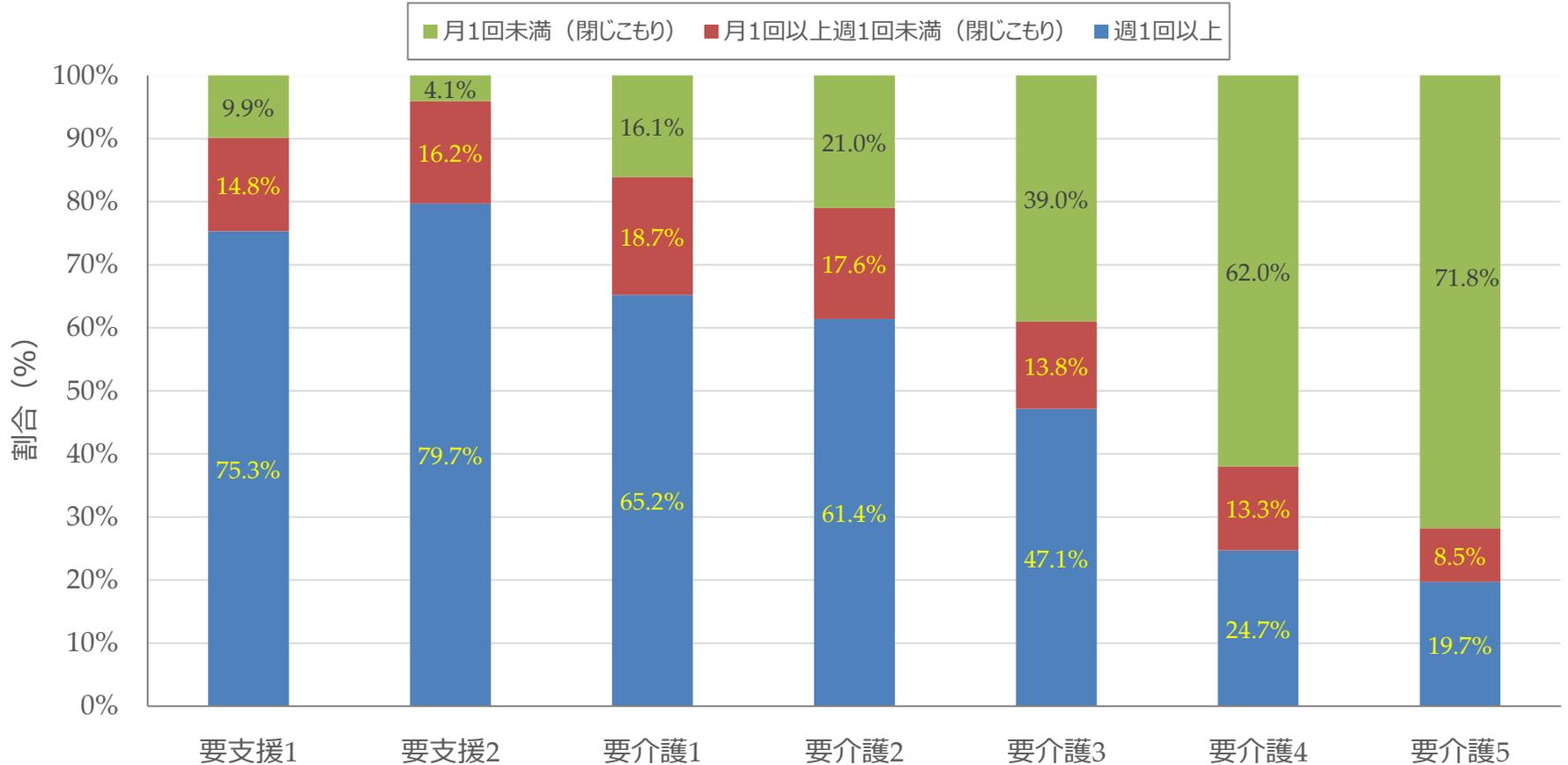
b) 構成割合



要介護度別にみた外出頻度の状況（2019.9末時点）

- 要支援者の約2割は閉じこもりの状態であった。
- 閉じこもりの割合は、要介護度が重度になるにしたがって高くなっていった。

図表7-2. 要介護度別にみた外出頻度の状況

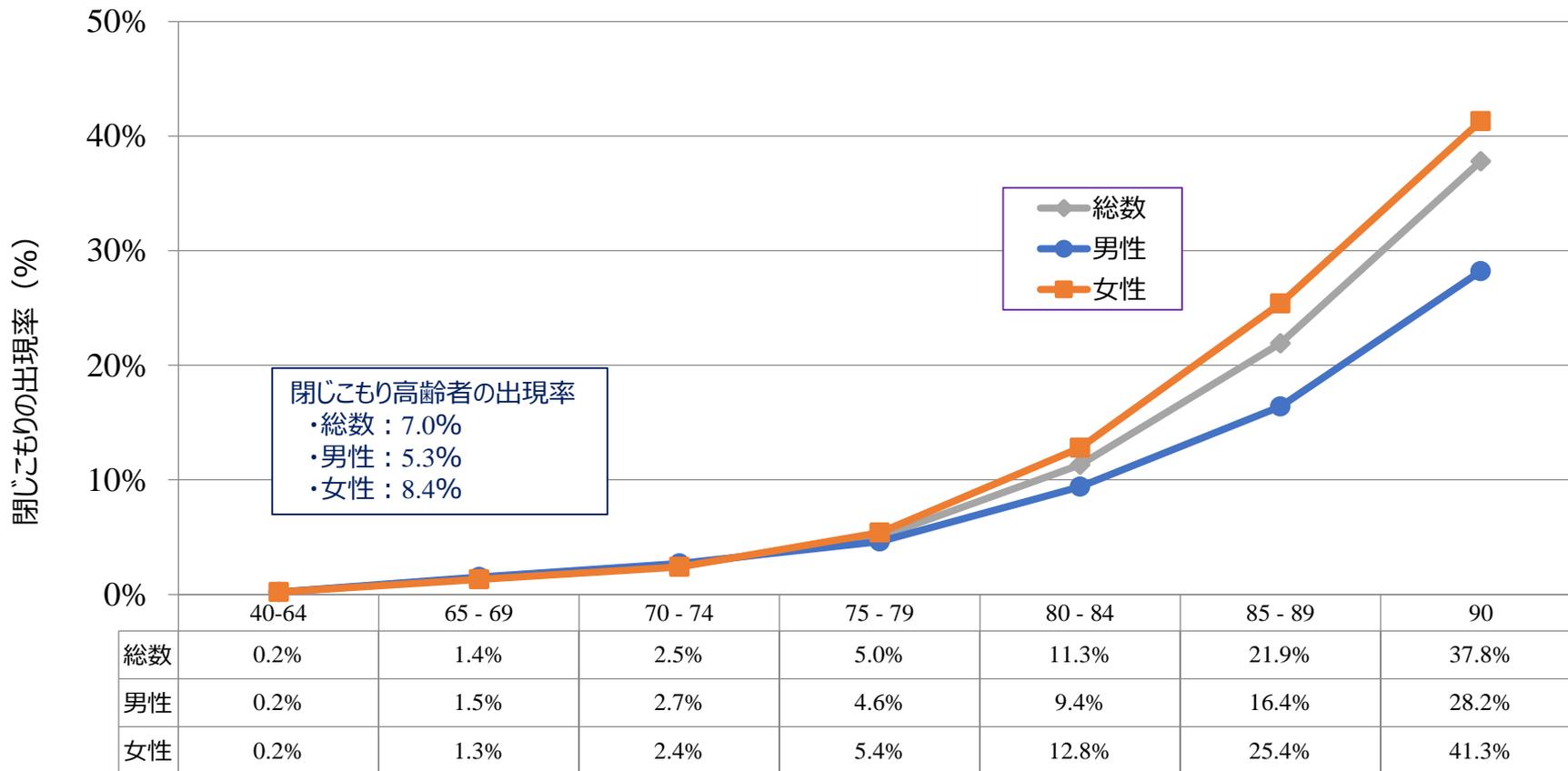


	総数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
週1回未満の割合 (%)	45.3	24.7	20.3	34.8	38.6	52.9	75.3	80.3

性別年齢階級別にみた閉じこもりの出現率（対人口、2019.9末時点）

- 2019年9月末時点の閉じこもり高齢者の出現率は7.0%（男性5.3%、女性8.4%）、「40-64歳」の閉じこもりの人の出現率は0.2%（男性0.2%、女性0.2%）であった。
- 閉じこもりの出現率は80歳以降で上昇していた。なお、その傾向は女性で顕著であった。

図表7-3. 性別年齢階級別にみた閉じこもりの出現率（対人口）



注：閉じこもりの出現率は、各年齢階級別人口のうち、認定調査項目「外出頻度」で「（週一回未満）, 月一回以上」「月一回未満」であったの者の割合を指す

出所）川越市の人口データ（2019.9）、要介護認定データ（2019.9）をもとに作成